

令和4年度

栃木県小学校教育研究会道德教育研究大会宇都宮大会

# 研究紀要

研究主題

自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成  
～多面的・多角的に考え、深める道德科の授業を通して～

令和4年11月15日(火) 13:10~16:30

宇都宮市立明保小学校

主催 栃木県小学校教育研究会  
栃木県小学校教育研究会道德部会  
栃木県小学校教育研究会宇都宮支部道德支部部会

後援 栃木県教育委員会  
栃木県市町村教育委員会連合会  
栃木県小学校長会  
栃木県連合教育会  
宇都宮市教育委員会

## ごあいさつ

栃木県小学校教育研究会道德部会長 小川 順子

このたび、各地区より数多くの先生方にご参加いただき、令和4年度栃木県小学校教育研究会道德教育研究大会宇都宮大会を開催できますこと、心より感謝申し上げます。

本県では、主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童を育てる道德教育～自己の生き方についての考えを深める道德科の授業～」のもと、県内8地区の支部において研究を推進し、道德教育の充実・発展に努めております。全面実施5年目となる「特別の教科道德」（道德科）については、各学校の実情に応じて創意工夫した様々な指導方法及び適切な評価の実施等、授業の質的改善・充実に向けた取組が行われていることと推察申し上げます。

宇都宮市立明保小学校におかれましては、研究主題を踏まえ「多面的・多角的に考え、深める道德科の授業」について、学校をあげて熱心に研究に取り組んでこられました。大会参加の皆様には、互いの実践や成果を交流し、本大会で学び得たものを自身の学校や地域に持ち帰り、道德教育の更なる充実・発展にお力添えをいただければ幸いです。

結びに、会場校として研究を推進していただいた宇都宮市立明保小学校の皆様にご感謝申し上げますとともに、ご協力いただいた栃小教研宇都宮支部道德部会の皆様、ご指導ご支援賜りました栃木県教育委員会、河内教育事務所、宇都宮市教育委員会の皆様にご心より御礼申し上げます。

栃木県小学校教育研究会宇都宮支部道德部会長 粕田由里子

県内各地より、多くの皆様にごリモートでの参加をいただき、「令和4年度栃木県小学校教育研究会道德研究大会 宇都宮大会」を開催できますことに、心から感謝申し上げます。

コロナ禍の学校教育にあつては、様々な教育活動が制限される中で、子供たちの心のケアをはじめ、これまで以上に「道德教育」の充実が課題になってくるものと思われまふ。研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成」については、本地区においても研究を推進し、各学校で様々な工夫改善をしながら授業実践がなされているところです。

今回、県内の先生方が一堂に参集することが困難な中、我々教職員の研修の機会として、明保小学校におかれましては、事前に録画し編集した授業を視聴しての研究協議という形をとって頂きました。大変貴重な研修の機会となるものと思ひます。今大会を通して、各校の道德教育の一層の充実が図られますことを祈念いたします。

結びになりますが、宇都宮大会の開催にあたり、全校体制で研究を深めてくださいました明保小学校の教職員の皆様、リモートなどを通して一緒に指導案の検討に参加していただきました、宇都宮支部道德部会の皆様、また、本日ご指導をいただきます指導者の先生方、そして多方面にわたり大会までにご尽力いただいた方々に、心より御礼申し上げます。

令和2年度から全面実施となった学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善を行い、知識の理解の質を高めることが重視されています。先行して平成27年度に、「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」が示され、道徳的価値についての問題解決的な学習を重視した道徳教育の充実が求められています。

本校では、令和2年度から3年間にわたり道徳科の授業を核として、研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～」として研究に取り組んでまいりました。

予測が困難な時代を生き抜く子供たちにとって、答えが一つでない道徳的な課題に向き合って悩み考え、対話し、再度考え自己を見つめるといった一連の学びを通して、道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることは、生きる力を養う上で大切であると考えます。

私たち教職員はどのようにしたら、児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、その時点での納得解を得るような授業ができるのか等について、試行錯誤を繰り返しました。

1年目は、教職員で児童の実態について話し合い、保護者にアンケートを取り、重点とする価値項目を決め、年間指導計画の見直しを図りました。2年目は、話合いの土台となる認め合える関係性づくりに努め、明確な指導観をもって授業に臨めるよう教職員が対話し学び合いました。また、本校の学校経営の柱の一つである郷土を愛する心を育てるために地域教材を生かした授業についても研究しました。

3年目の今年度は、教師自身が多面的・多角的に考える経験を積むことの重要性をふまえ、思考の深まりを目指した児童の学び合いへの支援や教師の問い返しについて、実践と検討を重ねステップアップを図りました。トリオ学習をはじめとする少人数の話合い活動では、伝え合いから始まり、白熱した話合いができる学級が増えてきました。8月上旬には、オンライン指導案検討会を実施し、宇都宮支部道徳部会の役員並びに常任委員の先生方に貴重なご意見を多数頂戴し、さらに深く考える機会となりました。

研究大会実施におきましては、当初、県内各地から多くの先生方にお越しいただく計画を立てておりましたが、今年の上半期に、新型コロナウイルスの感染者が急増したことから、撮影した授業のビデオをご覧いただき、オンラインによる大会を実施することといたしました。教室で授業をご覧の上、対面により協議いただきたい思いはございましたが、感染状況の予測が難しい中での策として、ご理解くださいますようお願いいたします。

本校はまだまだ研究途上にございますので、研究内容及び公開授業について、ご参加くださった皆様方からご指導いただきますようお願いいたします。

結びに、本研究の推進にあたり、宇都宮大学大学院教育学研究科教授の和井内良樹先生、栃木県小学校教育研究会道徳部会顧問の生田敦校長先生には、示唆に富んだ提案授業を実践していただきました。また、河内教育事務所指導主事の中澤由香先生、宇都宮市教育委員会副主幹の和田千明先生、宇都宮市立平石中央小学校副校長の津久井文先生には、丁寧で具体性に富んだご指導をいただきました。また、栃小教研宇都宮支部道徳部会の皆様をはじめ、本日の研究発表会に向けて本校を支えてくださいました全ての皆様に対しまして、心より感謝を申し上げあいさついたします。

令和4年11月15日

# 目 次

## I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
  - (1) 今日的な課題から
  - (2) 本校の教育目標との関連から
  - (3) 児童の実態から
- 3 研究主題の捉え方
  - (1) 「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる」とは
  - (2) 「多面的・多角的に考え、深める」とは
- 4 目指す児童像
- 5 研究の仮設
- 6 研究の内容
  - (1) 道徳科の授業における指導の工夫
  - (2) 全教育活動との関連を図った年間指導計画の作成
  - (3) 様々な教育活動との関連
  - (4) 研究組織
  - (5) 研究方法
  - (6) 研究計画
- 7 研究構想図
- 8 研究経過

## II 研究の実際

- 1 道徳教育全体計画構想図  
全教育活動との関連（6年の例）
- 2 親和的な人間関係を作るための協働的な活動の推進

- (1) 学年・学級における取組み
- (2) 異学年交流を通じた特別活動の取組み
- (3) 小中一貫・幼保小連携を通じた特別活動の取組み
- (4) 地域との交流を通じた取組み

### 3 豊かな心を育むための環境づくりの推進

- (1) 道徳性を育む校内環境の整備
- (2) 家庭・地域との連携

### 4 多様な指導方法と評価の工夫

- (1) 多様な指導方法の工夫
- (2) 評価の工夫

### 5 研究実践

- (1) 令和2年度
  - (2) 令和3年度
  - (3) 令和4年度
- 1年の実践
- 3年の実践
- 5年の実践
- (4) 3年間の研究の成果と課題

あとがき

ご指導いただいた先生方

研究同人

参考図書・資料

# I 研究の概要

## 1 研究主題

「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成」  
～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的な課題から

グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化、かつてないスピードでの少子高齢化の進行、予測困難な自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症の拡大など、児童を取り巻く社会状況は目まぐるしく変化している。こうした社会の加速的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、未知の課題に対して児童生徒が自ら考え、自ら課題を解決していく力を身に付けさせていくことは学校教育に課せられた大きな課題である。今後の社会を生き抜く子供たちには、多様な文化を背景とする多様な価値観をもつ人々と互いに尊重し合いながら、協力していく力も必要となってくる。一人一人が高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、自ら考え他者と協働しよりよい社会を創り出していく資質・能力を備えることが求められている。そのためには、児童一人一人が、一人の人間として自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きるための道徳性を育てていくことが必要である。

学習指導要領（平成29年度）では、これまでの道徳を「特別の教科 道徳」と位置付け、その解説の中で目標については、「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」としている。さらに、これを通して「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」としている。実際の指導については「自己を見つめる」ことについて「自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること」と示し、より自己の生き方を見つめ、考えを深めることを強く求めている。また、児童一人一人が、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、我がこととして自他を尊重し、表現する力を育むために、「物事を多面的・多角的に考える学習」も求めている。

このようなことから、「特別の教科 道徳」を道徳教育の要としてとらえ、一人一人の児童が他者との対話を通して自己を見つめ、物事を多面的・多角的に深く考え、豊かな心でよりよく生きようとする児童の育成が重要であると考えた。

### (2) 本校の教育目標との関連から

本校では、「心身ともに健康でたくましく、確かな学力と豊かな人間性をもち、ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成」を教育目標に掲げ、具体目標を次のように定めている。

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え 最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり 誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

「明保小の合言葉」

元気・やる気・勇気・思いやり

本研究を進めるに当たり、道徳授業において、児童にとって魅力ある課題を提示し、児童が多様な

視点から話し合い、語り合うことを通して、自己のよりよい生き方を考えていく授業を目指していくこととする。さらに、自分の考えを明確にもち、それを他の考えと比べながら確固たるものにしたり、変化させたりすることで考えを深めていく活動を重視していく。これらのことが、教育目標の達成に迫るものであると考える。

### (3) 児童の実態から

本校児童は、明るく素直な児童が多く、「元気・やる気・勇気・思いやり」を合い言葉に、学校生活を意欲的に過ごしている。

生活面においては、指示されたことに真面目に取り組んだり、与えられた役割を果たそうと努力したりすることができる児童が多く、自分の役割を意識しながら活動している。また、学級だけでなく異学年交流等で人と関わることを好み、様々な活動を通して、身近な人や友達と仲良く接し、思いやる姿も見られる。一方で、自分で判断し自主的に行動したり、積極的に自分の考えを伝えたりすることを苦手とする児童もあり、自主性・自律性にやや課題が見られる。自分をよくしたいという思いをもっていたり、正しい行動とは分かっていたりしても、周囲の言動や雰囲気の流れに流され自らの正しい行動にはなかなか結びつかない場面もあり、必ずしも道徳的価値の理解が日常生活に生かされているとは言えない。

学習面においては、学習意欲が高く、与えられた課題に一生懸命に取り組み、友達の意見を聞くことができるが、自分の考えを進んで発表し、友達と考えを練り合いながら思考を深めていこうとすることに、やや消極的な傾向が見られる。道徳科の授業の様子を見ると、友達の意見を尊重しながら聞くことはできていても、そこから自分の考えを深めたり、道徳的価値を自分ごととして考えたりすることについては、まだ十分とは言えない。

このような児童の実態を踏まえ、学校生活全体を通して、安心感のある温かな集団の中で、自己の生き方について真剣に考え、多様な感じ方や考え方を受け止め、自分の考えを広げたり深めたりできる児童を育てたいと考えた。

以上のことから、研究主題・副主題を「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～」として、研究に取り組むこととした。

## 3 研究主題の捉え方

### (1) 「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童」とは

本校では、「自己を見つめる」について、道徳的価値を自分のこととして感じたり、考えたりして、自分との関わりで捉えることとした。具体的には、道徳的な問題をこれまでの経験やそのときの感じ方や考え方と照らし合わせながら、自分自身の問題として捉え直したり、教材の登場人物を自分と重ね、比較して考えたりすることである。そうすることで、自分だったらどんな気持ちになるか、どう考えるか、どうしようと思うかなど、当事者になったつもりで心の内を見つめることができる。また道徳的価値について自己を見つめることで、これまでの自分、今の自分、これからの自分について考えを深め、これから自分はこうしていきたいという自己の生き方の思いや願いをもつことができ、「よりよく生きる」ことにつながると考える。

「豊かな心」については、学習指導要領解説総則において掲げられている次のようなことを大切にすることを児童一人一人に育みたいと考えている。

- ・困っている人には優しく声を掛ける
- ・ボランティア活動など人の役に立つことを進んで行う

- ・喜びや感動を伴って植物や動物を育てる
- ・自分の成長を感じ生きることが素直に喜ぶ
- ・美しいものを美しいと感じることができる
- ・他者との共生や異なるものへの寛容さをもつ

これらの心は、優れたものや尊いものに触れたり、美しいものをみたりしたときに感動する芸術的な感性だけでなく、家族への愛情や友達への思いやり、他人を尊敬する姿勢、良いことを行おうとする気持ちなども含まれることに留意しながら道徳教育を進めていかなければならない。

## (2)「多面的・多角的に考え、深める道徳科」とは

道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。そのためには、児童が多様な感じ方や考え方に接し、多様な価値観の存在を前提にして、教師や友達と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが大切である。対話や協働学習を進めるため、学校生活の基盤となる学級経営の充実に努め、多様な意見や考えを受け止め、自分で考えたことを伝え合うことのできる集団を作る必要がある。

そこで、本校では道徳科において、思いや考えを深める学習活動を意図的に設定し、ねらいとする道徳的価値をこれまでとは違った側面から見たり、異なる道徳的価値との関わりについて考えたりする多面的・多角的な思考によって、道徳的価値に関わる思いや考えを、さらに深めることができる授業を目指していきたいと考える。

## 4 目指す児童像

道徳科の授業を通して、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、他者との関わりの中で互いに考えを深めていこうとする児童

## 5 研究の仮説

- (1) 教師が明確な指導観に基づいた道徳科の授業を工夫することで、児童が課題意識をもって道徳的価値と自分との関わりを主体的に考えることができるようになるだろう。
- (2) 道徳科や関連する様々な活動を通して、友達や教師等と話し合ったり、自分の中で自問自答したりするなどすることで、物事を一面的にとらえるのではなく、多面的・多角的な見方をして考えることができるようになるだろう。

## 6 研究の内容

### (1) 道徳科の授業における指導の工夫

#### ①児童が問題意識をもって臨む授業

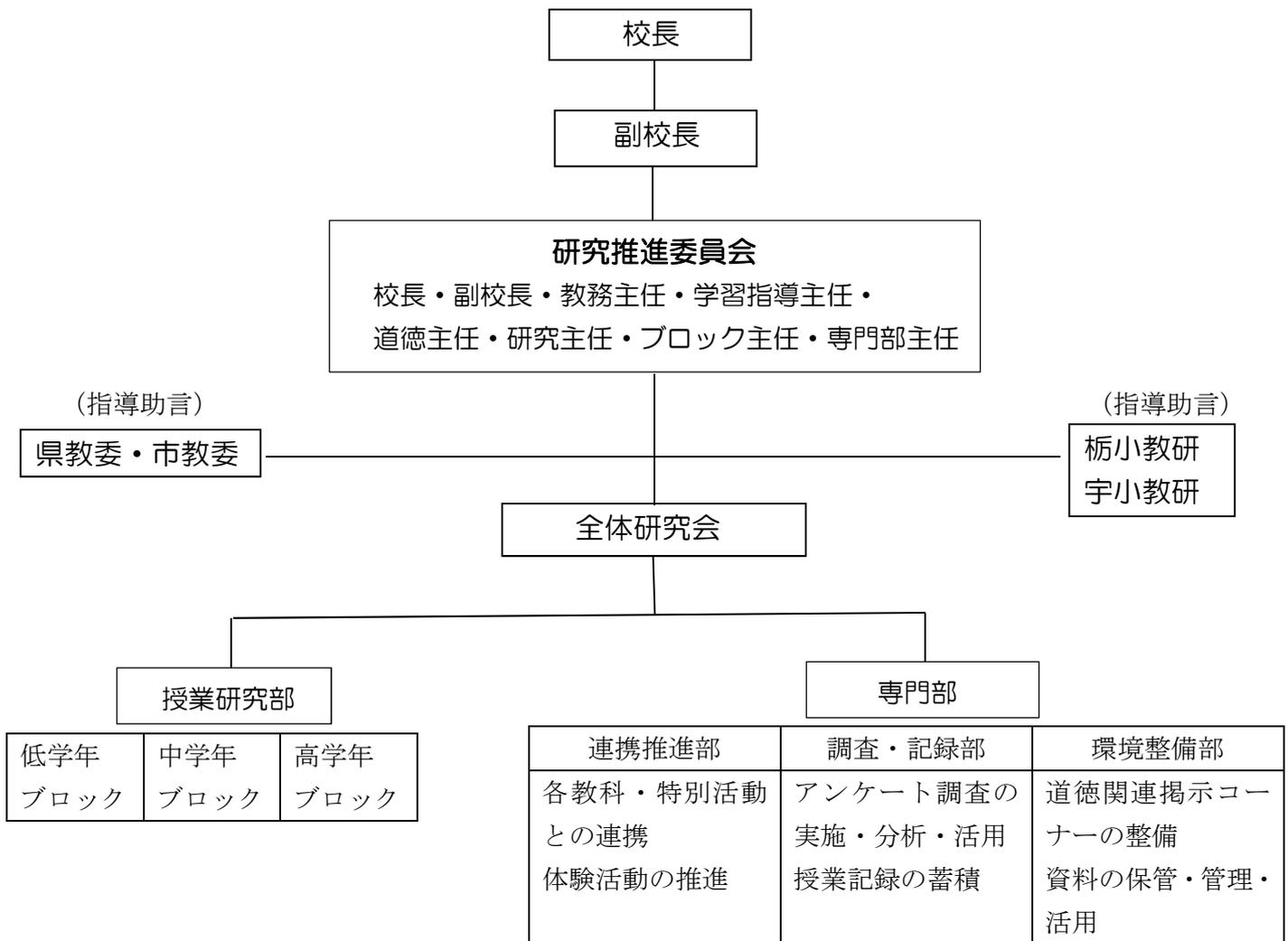
- ・教師の明確な指導観
- ・導入の工夫（事前のアンケート結果の提示、関連する画像や映像・写真などの活用、生活経験や他教科での経験を生かす等）
- ・教材提示の工夫（紙芝居、ペープサート等）

#### ②ねらいとする道徳的価値にせまるための発問の工夫

- ・問題意識をもたせる発問
- ・自分との関わりにおいて深く考えられるような発問

- ・多様な感じ方や考え方を引き出せるような発問
  - ・考える必然性のある発問
  - ・問い返しの発問
- ③多様な感じ方や考え方に触れることのできる学習形態の工夫
- ・話し合いの形態の工夫（ペア，トリオ，グループ，全体での話し合い）
  - ・座席の工夫（コの字型，半円形等）
- ④自分の考えを表現するための活動の工夫
- ・役割演技，動作化
  - ・表出カード（心情グラフ，心情図，心のものさし，心のシーソー，ネームプレートなど）の活用
  - ・ワークシートの工夫（吹き出し，手紙形式，思考ツール，キーワードメモ等）
- ⑤児童の思考を深めるための板書の工夫
- ・思考の流れに沿った順接的な板書
  - ・違いや多様さを対比的・構造的に示した板書
  - ・中心部分を浮き立たせる板書
- ⑥ICTの効果的な活用
- 【導入での活用】
- ・実態や問題の提示（画像や映像，グラフ等）
- 【展開での活用】
- ・教材の提示（画像や映像等）
  - ・自分の考えをもつ（タブレットに示す）
  - ・他者の考えを知る（タブレットで共有する，表やグラフ等）
  - ・自己を見つめる（タブレットに蓄積する）
- 【終末での活用】
- ・生活の様子への提示（画像や映像等）
  - ・外部の方の言葉への提示（画像や映像等）
- (2) 全教育活動との関連を図った年間指導計画の作成
- ①保護者・教員へのアンケート結果を生かした年間指導計画の作成
- ②道徳教育全体構造図・道徳教育全体計画・別様の見直し
- (3) 様々な教育活動との関連
- ①家庭との連携と啓発
- ・道徳科の授業参観の実施
  - ・道徳だより「こころ」の発行（毎月）
  - ・学年だよりでの啓発（コーナータイトル「こころの窓」）
- ②縦割り班活動，異学年との交流
- ③各教科との関連を図った指導の充実
- ④相互に認め合う教室掲示（「〇〇の木」「キラリ星」など）
- ⑤資料の保管と活用

(4) 研究組織

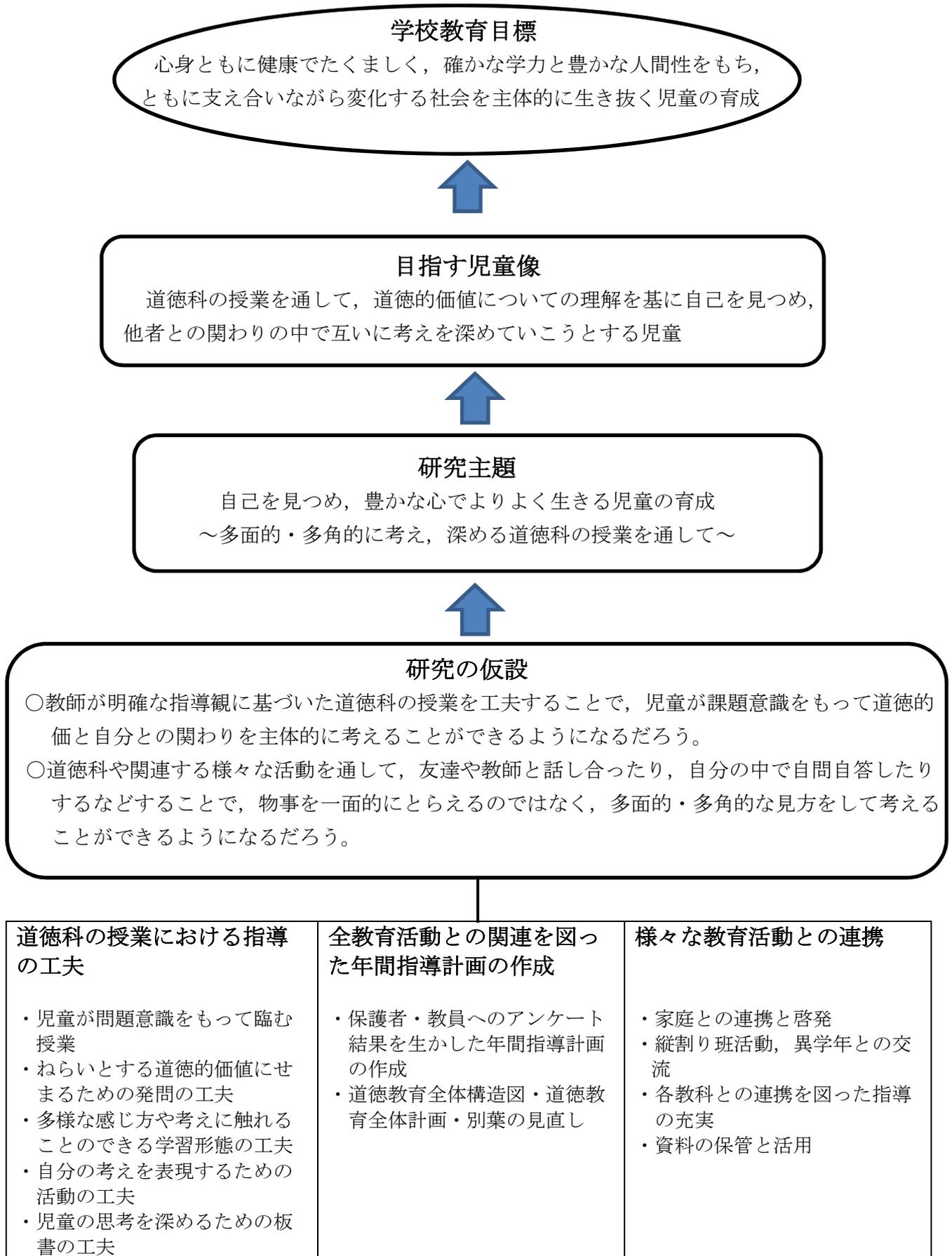


(5) 研究方法

- 研究推進委員会
  - ・研究推進のための原案作り（理論作り）や研究の方向性を提案し，各部会との連携を図り，実践を進める。
- 研究全体会
  - ・研究の進め方について共通理解を図る。
  - ・研究授業の参観，授業研究会などを行う。
- 学年・ブロック会議
  - ・教材研究，指導案検討，模擬授業，研究実践などを行う。

(6) 研究計画 ※詳細は，現職教育年間計画参照

- ①学年・ブロックでの研究【授業研究部】
- ②校内研究授業及び研究全体会
- ③連携推進部，調査記録部，環境整備部での研究【専門部】



## 8 研究経過

令和2年度

期 日	研修名	内 容
6月24日(水)	要請訪問①	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会               <ul style="list-style-type: none"> <li>2年3組 江口 かおる 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任</li> <li>「わすれられないえがお」</li> </ul> </li> <li>4年2組 菊地 洋貴 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>C-(13) 校正, 公平, 社会正義 「となりのせき」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> 宇都宮市立陽南小学校教諭 齋藤 尚子 先生
7月27日(月)	校内研修	研究主任 福田 恵子 教諭 本校の道德教育についての共通理解
9月 9日(水)	校内研修	宇都宮大学共同教育学部教授 和井内 良樹 先生 模擬授業 講話
11月25日(水)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会               <ul style="list-style-type: none"> <li>1年3組 西松 理那乃 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>A-(2) 正直, 誠実 「どんぐり」</li> </ul> </li> <li>6年2組 星 直樹 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>B-(10) 友情, 信頼 「ばかじゃん」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
1月27日(水)	要請訪問②	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会               <ul style="list-style-type: none"> <li>3年2組 伊波 優芸 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>B-(11) 相互理解, 寛容 「たまちゃん, 大すき」</li> </ul> </li> <li>5年3組 池田 和博 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「宮染めの浴衣」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

令和3年度

期 日	研修名	内 容
7月 6日(火)	要請訪問①	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会               <ul style="list-style-type: none"> <li>2年3組 西松 理那乃 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>A-(3) 節度, 節制 「わがままな大男」</li> </ul> </li> <li>6年2組 星 直樹 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>C-(12) 規則の尊重 「星野君の二るい打」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> 宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生
7月27日(火)	校内研修	学習指導主任・研究主任 福田 恵子 教諭 道德教育の課題・研究方針についての共通理解
11月17日(水)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会               <ul style="list-style-type: none"> <li>4年3組 杉村 寛子 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「石のまち大谷」</li> </ul> </li> <li>5年2組 大久保 怜史 教諭                   <ul style="list-style-type: none"> <li>B-(7) 親切, 思いやり</li> <li>「ノンステップバスでのできごと」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> 宇都宮市立平石中央小学校副校長 津久井 文 先生

1月27日(木)	要請訪問②	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会</li> <li>1年2組 坂本 聖愛 教諭 B-(10) 友情, 信頼 「二わのことり」</li> <li>3年2組 高山 卓哉 教諭 B-(11) 相互理解, 寛容 「たまちゃん, 大すき」</li> </ul> 宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生
----------	-------	--

令和4年度

期 日	研修名	内 容
4月20日(水)	職員研修	道徳研究大会組織づくり 授業研究部・専門部(連携推進部・調査・季記録部・環境整備部)所属決定
7月14日(木)	要請訪問①	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会</li> <li>2年3組 伊波 優芸 教諭 A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志 「さかあがりできたよ」</li> <li>4年3組 福田 彩夏 教諭 C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「石のまち大谷」</li> </ul> 栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事 中澤 由香 先生 宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生
7月20日(水)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業</li> <li>3年3組 有村 由貴 教諭 B-(10) 友情, 信頼 「なかよしだから」</li> <li>5年2組 岩崎 尋 教諭 C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「宮染めの浴衣」</li> </ul>
7月21日(木)	城山西小 校内研修参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業参観 研究主任・教務主任</li> </ul> 宇都宮市立平石中央小学校副校長 津久井 文 先生 B-(7) 親切, 思いやり 「ノンステップバスでのできごと」
7月25日(月)	校内研修	宇都宮市立西原小学校長 生田 敦 先生 模擬授業・講話
8月3日(水)	指導案検討会	栃小教研宇都宮支部道徳部会役員・推進委員の先生方 公開学年(2・4・6年)指導案検討 オンライン研修
8月30日(火)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業</li> <li>1年3組 岡本 直美 教諭 C-(18) 国際理解, 国際親善 「ぼくとシャオミン」</li> </ul>
9月14日(水)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究会</li> <li>6年2組 増渕 育恵 教諭 C-(12) 規則の尊重 「星野君の二るい打」</li> </ul> 宇都宮市立平石中央小学校副校長 津久井 文 先生

9月16日(金)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・VTR撮り</li> <li>6年3組 増渕 育恵 教諭</li> <li>C-(12) 規則の尊重 「星野君の二るい打」</li> <li>宇都宮市立平石中央小学校副校長 津久井 文 先生</li> <li>栃小教研宇都宮支部道德部会推進委員の先生方</li> </ul>
10月5日(水)	校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・VTR撮り</li> <li>4年2組 高山 卓哉 教諭</li> <li>C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「石のまち大谷」</li> <li>栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事 中澤 由香 先生</li> <li>宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生</li> <li>栃小教研宇都宮支部道德部会推進委員の先生方</li> </ul>
10月6日(木)	校内研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・VTR撮り</li> <li>2年2組 坂本 聖愛 教諭</li> <li>A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志 「さかあがりできたよ」</li> <li>栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事 中澤 由香 先生</li> <li>栃小教研宇都宮支部道德部会推進委員の先生方</li> </ul>
10月18日(火)	要請訪問②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会に向けて 道德研究についての共通理解</li> <li>栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事 中澤 由香 先生</li> <li>宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生</li> </ul>
11月15日(火)	道德研究大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県小学校教育研究会道德教育研究大会宇都宮大会</li> <li>・研究授業・授業研究会(オンライン配信)</li> <li>2年2組 坂本 聖愛 教諭</li> <li>A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志 「さかあがりできたよ」</li> <li>4年2組 高山 卓哉 教諭</li> <li>C-(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (宇都宮市地域教材) 「石のまち大谷」</li> <li>6年3組 増渕 育恵 教諭</li> <li>C-(12) 規則の尊重 「星野君の二るい打」</li> <li>栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事 中澤 由香 先生</li> <li>宇都宮市教育委員会副主幹指導主事 和田 千明 先生</li> <li>宇都宮市立平石中央小学校副校長 津久井 文 先生</li> </ul>
12月14日(水)	校内研修	研究のまとめ

# II 研究の実際

## 1 道徳教育全体計画構想図





## 2 親和的な人間関係を図るための協働的な活動の推進

### (1) 学年・学級における取組み

#### ○ 互いを認め合う場の設定

・帰りの会で、その日にあった友達の頑張り屋よさを紹介し、認め合う時間を設けている。

学年によって、「きょうのキラリ」「すてき発見」「あいうえおの星」(ありがとう・いいね・うれしいよ・えらいね・おめでとう) などネーミングし、児童たちの楽しみの時間となっている。

#### ○ 継続的な掲示物の工夫

・自分や友達の良いところ、嬉しかったこと、有難うの気持ち、すてきなあとと思ったことなどを紹介するコーナーを設け、常時掲示している。

・普段の学習や自主学習における良いノートの工夫や取り組みを紹介する。

#### ○ 「学年会」の重視

・「学年会」を位置づけ、しっかりとした共通理解のもと、学年経営を行っている。

指導資料の共有や学習の状況は勿論、児童の情報交換を行い、学年全体で指導していく体制を大切にしている。



### (2) 異学年交流を通じた特別活動の取組み

#### ○ 縦割り班活動

年度初めに縦割り班を編成し、定期的に遊んで触れ合う時間を設けている。6年生がリーダーシップをとって全学年が楽しめる遊びの計画を立て、実行している。下級生を優しくいたわる姿、上級生を頼りにする姿がたくさん見られ、心温まる異学年交流の場となっている。



また、日常の清掃活動や児童会活動も同じ縦割り班で行うため、互いの顔や名前を覚え、親しく交流を深めることができている。

#### ○ 児童会活動 <フラワーロードさわやか集会>

本校の特色ある児童会活動として、「フラワーロードさわやか集会」がある。

学校創立の記念に、130周年に500本、135周年に200本のアジサイを学校周辺に植樹し、「フラワーロード」と命名した。花は、児童・教職員・保護者・地域の方々の手で大切に育て、守っている。挿し木をして毎年少しずつ数を増やしていき、今では明保小のシンボルになっている。「フラワーロードさわやか集会」は、児童会、特に栽培委員会が中心となって計画・準備をし、縦割り班で活動する。班で協力して、割り当てられた場所の除草・清掃を行うことにより、先輩たちから受け継いだアジサイに着目し、これからも



守り育てていこうとする意欲を高めている。

### (3) 小中一貫・幼保小連携を通じた活動の取組み

#### ○ 地域学校園挨拶運動

年に2回、宮の原中学校の生徒会と学校園各小学校児童会が連携し、地域学校園全体で「挨拶運動」を行っている。中学生が自分の母校の小学校に出向き、昇降口等で、委員会の児童と共に元気よく朝の挨拶を行っている。



#### ○ 学校図書館の交流 <宮・MIYA・文庫>

本学校園独自の取組みとして、「宮・MIYA・文庫」がある。

6年生を対象に、学校園内の図書館司書が選定した本を、小学校から中学校にわたって読んでいこうという活動である。共通の読書カードを利用し、読んだ本に印をつけたり感想を書いたりしていく。このカードは、進学の際、中学校に送り、引き続き活用していく。図書室には、中学校からの「おすすめの本」コーナーや各学校からの「図書館だより」が常時掲示しており、読書意欲の喚起とともに、先輩からの言葉や思いに触れ、心を育む大切な活動になっている。



#### ○ 幼稚園との交流

本校では、1年生が地域学校園内にある「まこと幼稚園」と長年交流をしている。

教職員が訪問し合い、授業を参観したり園児と触れ合ったりする活動は、相互理解を深める上でたいへん有効である。

また、年長園児を学校に招待し、小学校生活を体験したり一緒に遊んだりする活動は、子供たちにとってとても楽しい行事の一つである。園児を対象にいろいろと考えたり触れ合ったりすることを通して、思いやりの心を育てている。



近年は、新型コロナウイルス対策で思うような活動ができなかったが、1年生からは「小学校の生活の紹介」を、園児からは「お礼の言葉」を交換するなど、できる範囲で交流を続けている。

### (4) 地域との交流を通じた取組み

#### ○ アジサイ剪定

アジサイは本校のシンボルであり、学校・家庭・地域をつなぐ大切な役割を果たしている。

本校の地域協議会の中には「アジサイ部会」があり、先に紹介した「フラワーロード」の整備や地域交流を図る取組みを行っている。例年、夏休み前にアジサイを剪定する活動があり、地域協議会が中心となって全家庭にボランティアを呼び掛け、実施している。アジサイの花が、今後もずっと美しく咲き続けていくことができるよう、学校・家庭・地域が一体となって

行う活動で、これからも大切につなげていきたい行事である。

○ 高齢者との交流

本地域には、豊富な知識や経験を持つ高齢者の会が複数ある。その会の方々を講師に招いて、昔遊びや輪投げ、グランドゴルフ、鉛筆削りなど、学年に応じてふれあい学習を行っている。児童たちにとっても楽しみな活動であり、核家族化が進む状況においては、高齢者の方々と触れ合う貴重な体験でもある。活動後は、教えていただいた会の方々にお礼の手紙を書くなどして、感謝の気持ちを伝えている。

地域や高齢者、ひいては家族に敬愛の気持ちを持ち、みんなが幸せに過ごすために自分に何ができるかを考える良い機会となっている。

### 3 豊かな心を育むための環境づくりの推進

#### (1) 道徳性を育む校内環境の整備

##### ア 校内環境整備

○互いのよさや頑張りを認め合う掲示物（各教室）

##### 1年生



身近な学校生活の場面で、児童が気付いた友達のよさやすごいと思ったところ、周りの人から感じ取った優しさなどを掲示するコーナーを設けた。  
コーナーの名前は、各学年で工夫し、各学級に掲示している。

##### 3年生



##### 4年生



○「心が温かくなる言葉」の階段掲示

子供たちの目に入る階段1段1段に、「心が温かくなる言葉」や「挨拶の言葉」を貼り、関心をもち続けられるようにした。



○各学年の取組の掲示

授業の様子等を各学年でまとめ、2階渡り廊下（ギャラリー）に掲示し、児童が授業を振り返ったり、他学年の授業の様子を見たりできるようにした。





(2) 家庭・地域との連携

○学年だよりでの啓発（コーナータイトル「こころの窓」）

実施した授業についてお知らせする「こころの窓」のコーナーを学年だよりに設け、家庭でもコーナーをきっかけに、道徳の時間の学びを話題にしていただけるようにした。

1年生

**こころの窓**

今月は、「はしのうえのおおかみ」の資料を元に、「親切」について考えました。「人に優しくすると自分もうれしい気持ちになる」ということや、「親切な行動が進んでできるようになるとかっこいいと思う」など、自分に置き換えて考え、話し合うことができました。学習したことを日常生活に生かしていこうと意欲的に振り返ることができました。

2年生

**こころの窓**

6月は、「元気にそだて ミニトマト」の資料を読んで、「身近な自然に親しみ動植物に優しい心を持って接する大切さ」について考えました。ゴールデンウィーク直後以来、学校で育てている野菜の世話の苦労と成長の喜びに照らし合わせて資料を読み、思ったことを発表しました。「大きな実をつけてくれたね。」「とてもおいしそうだね。」「水やりを忘れちゃってごめんね。」「お母さんに食べてもらいたいな。」など、自分の感想を発表し合っていました。

子供たちが学校で育て収穫してきた野菜をご家庭に持って来た時は、ぜひ励ましのお声掛けをいただければありがたく思います。

3年生



**こころの窓** 道徳コーナー

「あいさつをすると」というお話で、挨拶や礼儀について考えました。挨拶をしたいと思っても、恥ずかしさや相手の反応を気にしすぎるあまり、なかなか挨拶ができない女の子の気持ちを考え、クラスで話し合いました。女の子の気持ちに共感しながらも、最後には「もっと勇気をもって挨拶がしたい。」や「自分から挨拶をしてもっと仲良くなりたい。」と発表する子が増え、挨拶の良さや礼儀について考えることができました。

4年生

**<こころの窓>**

**道徳「ふれあいの森で」**

間伐がしっかり行われ、ボランティアが森を守っていることについて書かれた教材文を学習し、自然やその中に生きる動植物を守ることの大切さについて考えました。

【児童の授業振り返りより】

- ・お話の中のボランティアの人々は自然と向き合っているんだな。
- ・自然のために自分にも何かできることがあるかもしれない。
- ・人間は自然がないと生きていけないので、大切にしたい。
- ・自分もマリーゴールドを育てたことがあるけれど、その時は自然のことを気にしていなかった。今度植物を育てるときには自然のことを考えたい。

5年生

**<こころの窓>**

5月の道徳では「いつも全力で ～首位打者イチロー～」を読みました。どんなことにも手を抜かず、全てを出し切るイチロー選手の姿に、心を打たれた様子でした。その後、自分が今まで最後まで諦めずに頑張れたがあったか、振り返りました。習い事であったり、部活動であったり、様々な成功と失敗があったようです。ご家庭でもぜひ、諦めなかったことや、やり切ったこととお話していただくと幸いです。

6年生

**<こころの窓>**

〈ジャズのまちー宇都宮に生まれてー〉

自分の個性や長所を知り、積極的に伸ばして将来に生かしていこうとする意欲を育てることをねらい、地域教材を使って授業を行いました。



## 4 多様な指導方法と評価の工夫

### (1) 多様な指導方法の工夫

#### ○導入の工夫

- ・事前アンケートを活用しての価値の方向付け
- ・生活経験や他教科との関連

#### ○教材提示の工夫

- ・デジタル教科書の音声教材の活用
- ・挿絵や実物の提示
- ・動画資料の活用

#### ○話合いの形態の工夫

- ・ペア・トリオ・グループ学習の導入
- ・児童同士の相互指名

#### ○自分の考えを表出するための工夫

- ・動作化や役割演技
- ・ペープサート、お面、心情メーターの活用
- ・吹き出しや手紙形式のワークシート
- ・思考ツールの活用

#### ○板書の工夫

- ・場面絵・登場人物の絵の提示
- ・思考の流れに沿った順接的な板書
- ・違いや多様さを対比的・構造的に示した板書

#### ○一人一台端末の効果的な活用

- ・資料の提示
- ・自分の考えの表出・他者の考えを知る（共有）
- ・自己を見つめる活動での活用・蓄積

#### ○終末の工夫

- ・ゲストティーチャーの活用
- ・画像や映像の活用
- ・参考資料の紹介

### (2) 評価の工夫

- ・道徳ファイルへの学習記録の蓄積
- ・座席表を活用し、児童の発言内容やそのときの様子などを記録
- ・児童が行う振り返りと自己評価への教師のコメント（ワークシート）
- ・児童が行う振り返りと自己評価をタブレットで可視化・共有・蓄積
- ・授業中の発言やワークシートへの記録から、児童の良さや成長の見取り

## 5 研究実践

### (1) 令和2年度

#### 第1回 校内研修〈要請訪問〉

1 2学年 道徳 題材名 わすれられないえがお 第2学年3組 指導者 江口かおる

#### 2 授業の実際

活動1 アンケートをもとに、自分の経験を発表し合う。

発問と同じ内容でアンケートを取り、自分とつなげて考えさせた。

活動2 教材文を読んで考える。

(1) 隣のおばさんの足を踏んでしまったときの、主人公の気持ちを考える。

(2) もう一度おばさんの顔を見たときの、主人公の気持ちを考える。

主人公の気持ちを考えさせたいという思いから、一人一人にペープサートを用意し、発表時にも使用した。



(3) おばさんが素敵な笑顔になったときの主人公の気持ちを考える。

表裏で違う表情の場面絵を使用して、気持ちの変化を考えさせた。

活動3 「正しいことを思い切ってしてよかった。」と思ったことについて話し合う。

活動4 本時を振り返り、自分の考えをワークシートに書く。

活動5 児童の作文を聞く。

「あすへのびる」の作文を活用した。価値を広げられると思われる似た場面の作品を選択した。

BGMに子どもたちが大好きなオルゴールの曲をかけた。

#### 3 成果と課題

##### (1) 成果

- ・事前に発問と同じアンケートをとったことで、自分のこととして捉えることができた。
- ・ペープサートを活用したことで、主人公の気持ちに寄り添って考えることができた。

##### (2) 課題

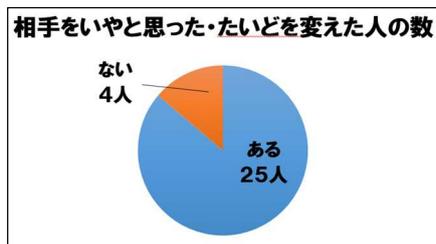
- ・ペープサートを工夫し、表裏で「困った顔」「笑顔」にしたり、もう少し大きくしたりすると、より効果があったのではないか。
- ・子どもと実際に役割演技をするとさらに深まったのではないか。清々しさが強調され、見ている子どもたちの考えを聞くことで広がりが出たのではないか。
- ・終末の作文は、もっと価値が絞られたものにしてもよかったのではないか。時間にゆとりがない場合は、なくしてもよいのではないか。



2 授業の実際

活動1 アンケート結果から学級の実態を把握する。

○学級では友達に嫌だと思ったことのある人、態度を変えた人が多い実態があることを確認する。



**相手をいやだと思ったことはありますか？**

- ・給食のとき
- ・休み時間
- ・いじわるをされたとき
- ・授業中
- ・席がえのとき
- ・けんかをしたとき

**相手によって、たいどを変えたことはありますか？**

- ・遊んでいるとき、人によってたいどを変える
- ・いやな人、きれいな人にはたいどを変える
- ・きれいな人にはちよかいを出す
- ・なかのいい人にはやさしくしている

活動2 教材文を読んで考える

(1) (紙芝居を見せて)「なんでわたしが」と言ったものの気持ちを考える

○教材の主人公の心情に着目し、なぜ席替えの時に否定的なことを言ったのか、発問を通して状況を確認する。



(2) (紙芝居を見せて) みち子の話聞いたものの気持ちを考える

○友達によさに気づき、自分の行動を反省するものの気持ちを考えさせる。

(3) (紙芝居を見せて) お母さんの言った「もっと大事なこと」とは何かについて考える

①友達と接するうえで最も大事なことは何かワークシートに書き込む。

②グループで話し合い、グループで決めた最も大事なことを、理由を併せて発表する。

③「今の自分にえられること」について何が自分の生活で改められるか考える。



活動3 学習を振り返る

(1) ワークシートにこれから自分ができるところを書き込む。

(2) 教師の説話を聞く。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・アンケート結果を授業の導入と展開時に見せたことで、自分たちの問題として捉えることができた。
- ・グループごとになぜそのように考えたか、理由を問うことで考えが深まった。

(2) 課題

- ・「もっと大事なこと」についてグループで話し合う際に、1つに考えを絞る必要はなかった。
- ・内容項目Cであるので、教材文中の登場人物と併せて集団に着目させる必要があった。

## 第2回 校内研修

1 1学年 道徳 教材名 どんぐり

第1学年3組 指導者 西松 理那乃

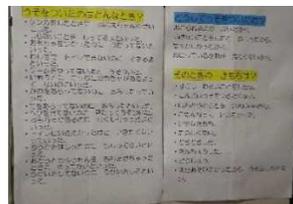
### 2 授業の実際

活動1 事前アンケートを確認する。

○正直、誠実についての各自の考えを把握するとともに、その結果を  
導入で提示することにより、課題意識を持ち、学習テーマにつなげるようにした。

活動2 本時の学習課題を確認する。

どうしてうそをついてはいけないの？



活動3 資料を読み、「ようすけ」の気持ちについて考える。

(1) いけないと分かっているながら、ようすけが寄り道をしてしまったのは、どうしてかを考える。

○写真を掲示することで、どんぐりを拾った体験を想起できるようにした。

(2) おかあさんにじっと見られたとき、ようすけはどんな気持ちだったかを考える。



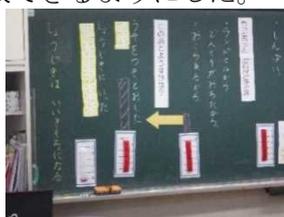
(3) さっきよりももっとも胸がドキドキしたのはどうしてかを考える。

○主人公を役割演技で演じることで、後悔や自責の念、強い良心の呵責の気持ちを児童が実感的に理解できるようにした。



活動4 この後の主人公の行動を考える。

○名前シートを貼り、視覚的に比較できるようにした。



資料の場面ごとに、主人公の感情の起伏を「心のものさし」で可視化することにより、語彙の少ない低学年の児童の思いを表現する助けになり、主人公の気持ちに寄り添って考えられるようにした。

活動5 ようすけに手紙を書く。

○ワークシートに書く量を減らし、かつ書きたくなるようなどんぐりの絵柄にお手紙を書く設定にした。

### 3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 心のものさしを活用したことで、主人公の気持ちの変化を可視化することができ、気持ちに寄り添って考えることができていた。
- ・ 振り返りの活動で、手紙で主人公に教えてあげるという設定にしたので、積極的に書き、「自分だったらどうするか」と振り返ることができた。

(2) 課題

- ・ 中心発問の問いに対して、「おこられるから」から抜け出せることができなかった。語彙が少ない一年生に対して、さらに考えを引き出す声掛けや補助発問が必要であった。
- ・ また、発表者と担任とのやりとりにとどまってしまったので、低学年でも児童同士が繋がっていけるような支援をする必要があると考える。

## 2 授業の実際

活動1 今までの経験を振り返り、課題をつかむ。

- ・今までの友達関係を振り返ることで、本教材が提示する問題に実感をもって向き合うことができるようにする。

活動2 教材「ばかじゃん!」をもとに考え、話し合う。

(1) 自分だけが「ばかじゃん」と言われる主人公の気持ちを考える。

- ・会話の文脈を押さえることで、「ばかじゃん!」と言われたことを理不尽と感じる主人公の心情に共感できるようにする。
- ・友達の言動に対して不信感を抱いたときの心情を自分事として考えるようにする。

(2) かおりと話をし、主人公が気付いたことを考える。

- ・仲違いをしたかおりに話しかけ、今の自分を変えようとする主人公の姿に気付くことができるようにする。

(3) 中心発問に対しての自分の考えを書き、話し合う。

- ・あなただったらどうするかを助言し、支援する。

(4) 後半部分を読み、話し合う。

- ・主人公ときのちゃんの言葉の捉え方にズレがあったことを押さえる。
- ・そもそもすれ違ってしまった原因はどこにあるのかを考えさせる。
- ・「ばかじゃん」以外にも相手を傷つけてしまう可能性のある言葉を考えさせる。

活動3 本時の学習を振り返る。

- ・自分は主人公ときのちゃんのどちらのタイプに近いと考えさせる。



## 3 成果と課題

(1) 成果

- ・3人グループ(三角向かい合い)、指名の仕方(番号、どうぞ)など工夫されていた。教師からのゆさぶりの発問や友達からの疑問の投げかけがあり、よかった。
- ・トリオ学習を取り入れたことでグループ内で意見が言いやすく、発言の機会を多く取ることができた。
- ・1人では考えられない児童にとって、友達の意見を参考にできていたのでよかった。
- ・中心発問が「あなたなら～」だったので、自分事として考えられていた。
- ・自分たちで「ばかじゃん」のように使ってしまった言葉を考えさせる自分事として捉えやすい工夫がよかった。
- ・最後の「自分はまゆみタイプか。きのちゃんタイプか。」の問いかけがよかった。すべての児童が他人事ではなく、自分事として考えることができていた。

(2) 課題

- ・話し合いをさらに活性化させるために、何を話し合うのかをはっきりさせ、発問を精選する必要がある。
- ・テンポはよかったが、1人でじっくり考える時間が少なかった。
- ・資料の提示は、何に重きを置くかで使い分ける必要がある。
- ・黒板に色々貼りすぎると見えにくいので精選する。



## 第3回 校内研修〈要請訪問〉

1 3学年 道徳 教材名 たまちゃん、大すき

第3学年2組 指導者 伊波 優芸

### 2 授業の実際

活動1 アンケート結果からけんかをしてしまった時の気持ちを思い起こす。

活動2 資料「たまちゃん、大すき」を読んで話し合う。

- (1) タイムカプセルを投げすてた時の、主人公の気持ちを考える。
- (2) タイムカプセルを捨てたと聞いた時の、たまちゃんの気持ちを考える。
- (3) 涙が止まらず抱き合った時の二人の気持ちを考える。



活動3 すれちがいを減らす方法をグループで考え、発表する。

活動4 今後自分がどうしていくか考え、発表する。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ・登場人物2人の気持ちを比較し板書することは、それぞれの立場の違いや心情変化をとらえるのに効果的であった。
- ・登場人物の行為や心情に対する納得度を数値化することは、児童同士が互いに考えを認識しやすくするために有効であった。

#### (2) 課題

- ・グループ学習の時間が短く、考えを深めることができずにグループの意見をただ書き取るだけの時間になってしまった。
- ・中心発問にあてる時間が短く、児童らがじっくりと中心発問について考える時間を損ねてしまった。

2 授業の実際

活動1 宇都宮市の伝統や文化について想起して発表する。

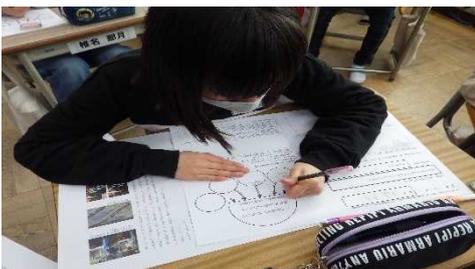
課題を確認 伝統や文化を大切にすることは、どういうことだろう。

活動2 「宮染め浴衣」を読んで話し合う。

- (1) 母に浴衣を着るか尋ねられたときの、主人公の気持ちを考える。
- (2) 見学後の主人公の気持ちを考える。
- (3) それぞれの立場の気持ちを考え、トリオで意見交流をする。

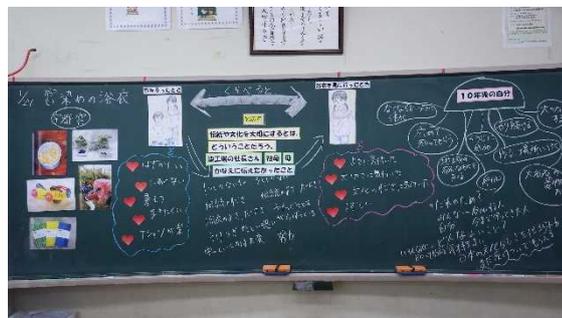


活動3 これからの自分について思考ツールを使って考え、トリオで意見交流をする。



活動4 学習の振り返りを行う。

活動5 教師の体験談を聞く。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・トリオ学習は、より主体的で多様な意見の交流を行うために有効であった。
- ・思考ツールを活用したことは、頭の中を可視化し、思考を広めたり深めたりするために有効であった。
- ・チョークの色分け等、構造的な板書の工夫。

(2) 課題

- ・グループ学習時の意見交流を深めるための指導の工夫。  
→意図的にグループに入り、コーディネートしていく。

# (1) 令和3年度

## 第1回 校内研修<要請訪問>

1 2学年 道徳 教材名 わがままな大男 第2学年3組 指導者 西松 理那乃  
2 授業の実際

活動1 事前アンケートを確認する。

○節度・節制についての各自の考えを把握するとともに、その結果を  
導入で提示することにより、課題意識を持ち、学習テーマにつなげるようにした。

活動2 本時の学習課題を確認する。

「わがまま」をしない、されないよさを考えよう。

2年3組 アンケート じゃか

○わがままをされたことはありますか。  
・運動場で遊んでいるときに、バケツに虫を入れられてしまい、こまった。  
・朝にトイレをしていて、水たまりに入ってしまったのでお母さんが怒りました。  
・おとうさんに早く寝てほしいと言われて、「やだ」と言われた。  
・ねるときに使ったおもちゃを、おとうさんに取られた。いやだった。  
・あそび場にいるときに、かっこしルールを定められてしまった。なんで？と聞いたら、  
・友達と「つかいあそび」とおぼろげに決めた。つかわれてしまった。かっこしかった。  
○わがままをしたのは、どんなときですか。  
・一人ぼっちで遊ぶときよくしていたので、友達と遊びたいと言ってしまった。  
・家の人が、学校のじゆんびきをしてと言われたので、「やだ。」と言ってやらなかった。  
・テレビを見ちゃダメと言われたのに、見てしまった。  
・おどろきのおもちゃをとってしまった。  
・いじりたがって、「かっこしかった。」と言ってしまった。  
・おどろきのおもちゃを友達にわたってしまった。  
・友達「だめだよ」と言われたのに、おどろかしてしまいました。  
・おどろきを友達にわたってしまった。ゲームをしちゃった。  
・おどろきを友達にわたらゲームしていいよと言われたのに、だれかおどろきはないの？  
・おどろきを友達にわたらゲームしていいよと言われたのに、だれかおどろきはないの？

活動3 教材「わがままな大男」をもとに話し合う。

(1) 大男が「ここはわしのにわだ。」と言ったのはどうしてかを考える。

(2) 春の庭で嬉しそうに遊ぶ子供たちの姿を見た時の大男の気持ちを考える。

○インタビュー形式で役割演技を行うことで、大男の心の変化を児童が実感的に理解できるようにした。

○3人組で話し合いをすることで、友達考えに触れられるようにした。



資料の場面ごとに、主人公の気持ちを表出ツール「心情メーター」で可視化することにより、語彙の少ない低学年の児童の思いを表現する助けになり、主人公の気持ちに寄り添って考えられるようにした。

(3) なぜ大男は「この庭は、お前たちのものだよ。」と言ったのかを考える。

○「わがままに気付いた大男」というキーワードを示し、  
自分のわがままと向き合った大男のよさに気付くようにした。

活動4 本時を振り返り、ワークシートに記入する。

「わがまま」をしない、されないよさ、どんなよさがありますか。

活動5 教師の説話

相田みつをの「うばい合えば」を紹介。



3 成果と課題

(1) 成果

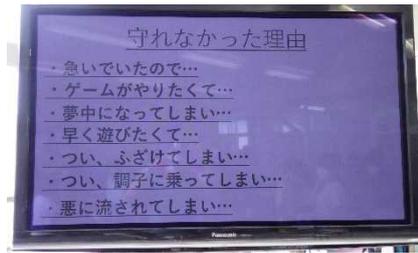
- ・表出ツール「心情メーター」を一人一人が活用したことで、主人公の気持ちの変化を可視化することができ、気持ちに寄り添って考えることができていた。コーディネートツールとしても、活用できていた。
- ・トリオ学習の話し合いが活発に行われていた。話し合いのポイントを掲示していたのが効果的であった。

(2) 課題

- ・役割演技の際、演技者と担任とのやりとりにとどまってしまうので、聞き手にも尋ねてみるなどして、低学年でも児童同士が繋がっていきけるように支援をする必要があると考える。一人の意見を全体の意見として広げる支援が必要。
- ・振り返り活動の時に、「よさを考えよう。」という言葉が難しかったのではないかと。

2 授業の実際

活動1 アンケート結果を見て本時の課題をつかむ。



活動2 教材「星野君の二るい打」を読んで話し合う。

(1) 星野君と監督の取った行動の理由について確認する。

(2) 星野君の行動について賛成か反対かを考え、話し合う。

個人で考えを書く



トリオで交流

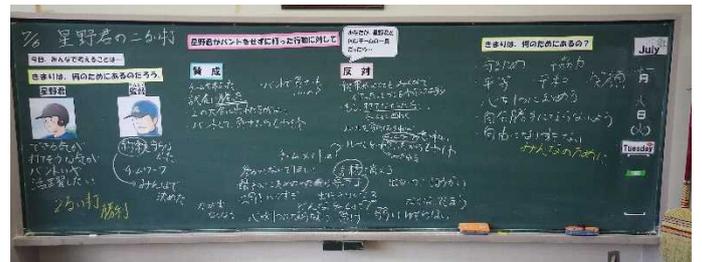


全体で交流



活動3 きまりの意味について考え、話し合う。

活動4 学習の振り返りを行う。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・自分がチームの一員だとしたらと想定し課題について考えることは、当事者意識をもたせるために有効だった。
- ・主体的で多様な意見の交流を行うために、トリオ学習を取り入れたことは有効だった。特に、補助発問で児童たちの考えをゆさぶり、その後トリオで話し合うという流れは良かった。
- ・規則の尊重という児童の身近な内容項目において、学級の実態を把握し課題意識をもてるようにするために、アンケートを活用したことは有効だった。
- ・補助発問で児童の考えをゆさぶったことが有効だった。

(2) 課題

- ・導入で児童に課題意識をもたせるための方法を持つておくといよい。例えば、児童にとって身近な課題ならアンケート、関係がありそうな行事等の写真、その場で聞いてみるなどがある。また、社会や現代的な課題を導入で示してもよい。
- ・教材から自分たちのことにどう自然にもっていけばよいのか研究が必要。
- ・本時のねらいの後半にせまるには、「分かっているけどできない…」「自分の弱さを乗り越える」などの観点で考えさせることで態度へのねらいにせまっていける。

## 第2回 校内研修

1 4学年 道徳 教材名 ぼくのじまんの町 石のまち大谷 第4学年3組 指導者 杉村 寛子

### 2 授業の実際

**活動1** ふるさとについてのアンケートの結果を確認する。

本時のめあてを確認する。

**活動2** 教材「石のまち大谷」を読んで話し合う。

(1) エミリに大谷の町を案内することになったときの主人公の気持ちを考える。

- 児童の反応
- ・大谷石よりゲームがいい
  - ・大谷石はそのへんにある石。見せるほどの石じゃない。
  - ・ぼくは知っているからいいや。

(2) 「大谷のことをもっともっと知りたい。」と思った主人公について考える。

- 児童の反応
- ・まだ知らないことがあったんだ。
  - ・大谷をもっと見てみたい。知りたい。
  - ・自分のまちにすごいものがあったんだ。

**活動3** 「ふるさと」を大切にすることについて考える。

昭和50年代に入り、大谷の石材の文化が一時衰退してしまった事実を伝え、それについても考える時間を設けることで、誰かが伝統を守ってくれるのではなくて地元の人々の努力によって伝統が守られていることに気付くことができるように工夫した。

「ふるさと」のよさを守るためにあなたは何がしたいですか？

- 児童の反応
- ・宇都宮のよさを世界に広めたい。
  - ・大谷石の魅力をたくさんの人に広めたい。
  - ・学習の振り返りをする。

**活動4** 大谷振興の仕事に携わる人の話を聞く。

- ・大谷シティガイドの方の話

お話いただいたこと ①どのような思いをもって大谷の振興についてのお仕事をされているか。  
②地域の子供たちに伝えたいこと。

### 3 成果と課題

(1) 成果

- ・教材文に大谷の写真を多く取り入れた教材文を、一人一台端末を用いて提示したことは、教材文の内容をよく理解させることと、学習に対する意欲を高めることに関して有効であった。
- ・ワークシートは過去、現在、未来への流れが書いてあり、分かりやすくなっていた。
- ・大谷のシティガイドをしている方へのインタビュー映像を終末に取り入れたことは子供たちにさらに実感を持たせるのに効果的だった。

(2) 課題

- ・タブレット使用しないときは画面を閉じさせるなどして、教師の話に集中できるようにした方がよい。
- ・タブレットは教材提示だけでなく、振り返りにも活用するとよい。
- ・活動3において「ふるさとのよさを守るためにしたいこと」を考えたが、中学年では、自分たちのまちのよさに気付かせる活動でも良かったのではないかと。
- ・トリオ学習は話を聞くとときに後ろ向きになってしまう児童がいる。トリオの作り方を工夫するとよい。

2 授業の実際

活動1 事前に行った親切に関するアンケート結果を見て本時の課題をつかむ。

活動2

- (1) バス内で車いすの男性を見た高校生の取った行動と、そばにいた主人公の気持ちについて確認する。
- (2) 車いすの男性に対しておじさんの取った行動と、それを見ていた和也の気持ちについて考え、話し合う。
  - ・おじさんの「バスに乗るのはあたりまえ」という言葉を聞いて、和也がどのような気持ちになったか、考えるよう助言した。
  - ・多様な考えに触れることができるようグループで意見を交流させた。

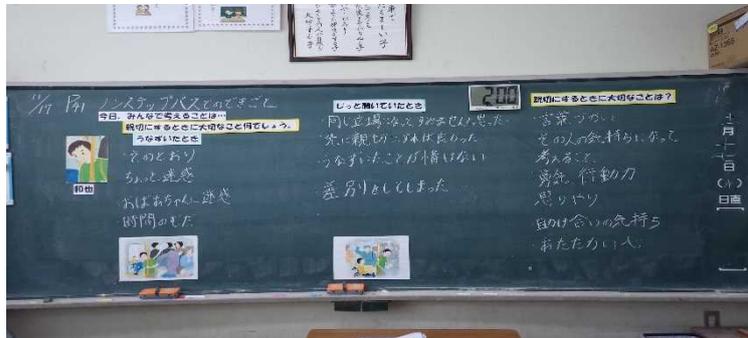


活動3 親切の意味について考え、話し合う。

・友達のことをよく聞き、自分が気付かなかったことに目を向けさせたり、自分の考えと比較させたりした。

活動4 学習の振り返りを行う。

- ・再び自分たちの事として置き換えて考えるため、導入で提示したアンケートを再度確認した。
- ・授業を通して気付いたことや考えたこと、友達のことを聞いて思ったことなどについて書いた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・アンケートを提示することで、当事者意識を抱いて学習課題について考えることができた。
- ・グループ内で積極的に情報交換が行えた。自分で考えることが困難な児童にもヒントになっていた。

(2) 課題

- ・終末に再度アンケートを用いた際、よりアンケート結果を深く見直す場面があっても良かった。
- ・トリオ学習で話し合うねらいをより明確化したり、互いの意見を基に更に考えを深めるため、ゆさぶりをかけるなど、より話し合いが活発になるような発問が出せたりすれば良かった。

### 第3回 校内研修〈要請訪問〉

1 1学年 道徳科 教材名 二わのことり

第1学年2組 指導者 坂本 聖愛

#### 2 授業の実際

活動1 アンケート結果を見て本時の学習課題を確認する。

- ・友達と仲良くすることは大切だと全員が思っているが、ほとんどの児童が友達と仲良くできなかった経験がある。

友達と仲良くするには、どんなことが大切でしょう。

活動2 二わのことりを読んで話し合う。

- ・うぐいすとやまがらの家を対比させ、うぐいすの家の方が魅力的であることを確認した。
- (1) やまがらから誕生日に招待された時のみそさざいの気持ちを考える。
- (2) やまがらの家に行きながら、みそさざいがどんなことを考えていたか確認する。
- (3) 嬉しそうにしているやまがらを見て、みそさざいはどんな気持ちになったか確認する。
- ・みそさざいの気持ちをワークシートに書かせ、自分の考えを整理させた。
- ・二人組でみそさざいとやまがらの役割演技をし、うぐいすの家を抜け出してやまがらの家へ行ったみそさざいの気持ちを考えさせた。
- ・全体の前でみそさざいの役割演技をした児童に、やまがらが喜んで様子を見てどう思ったか補助発問をすることで友達への思いやりが自分への喜びに繋がることに気付くようにした。



活動3 友達と仲良くするには、どんなことが大切か話し合う。

- ・嫌な言葉を言わない、喧嘩をしたらすぐに謝る、一緒に遊ぶなどの意見が多く出た。

活動4 本時の学習を振り返る。

#### 3 成果と課題

##### (1) 成果

- ・事前アンケートを実施したことで、児童の実態を把握することができ、児童の実体験と本教材を結び付けて考えることができた。
- ・みそさざい、うぐいす、やまがらの場面絵を掲示することで、明るいうぐいすの家と暗いやまがらの家を視覚的に対比させ場面の状況を把握しやすいように板書を構成することができた。
- ・ペーパーサートを活用した役割演技をすることで児童一人一人が自分の考えを深め、発表することができた。

##### (2) 課題

- ・学習の振り返りではなく、活動3で事前アンケートを活用した方が自分の生活と結び付けて考えることに有効だったのではないか。

2 授業の実際

活動1 アンケート結果を知る。

めあて 友だちとなかなかおりするときに、大切なことは何か考えよう。

けんかに関するアンケート

- ① なかよしの友達とけんかをしたとき、ゆるせなかったことはありますか。
- ② けんかの後、あなたはどのようにしたいですか。

活動2 教材「たまちゃん、大すき」を読んで、それぞれの場面のまる子の気持ちを考え、話し合う。

(2) タイムカプセルを投げ捨てたとき

- 児童の反応
- ・もうタイムカプセルはどうでもいい。
  - ・約束したのに、守らないのはひどい。
  - ・何で来てくれなかったの。

(2) おなべをみていたとき

- 児童の反応
- ・はっとした。
  - ・何かに気が付いた。

(3) タイムカプセルを探しているとき

- 児童の反応
- ・自分のことだけ考えていてごめんね。
  - ・何でもっと相手のことを考えてあげなかったのだろう。



活動3 まる子がたまちゃんにあやまろうと思った理由を考える。

寛容に接する大切さに気付かせるために、相手の立場や状況に着目させ、登場人物の気持ちに変化した理由を中心に考えさせ、寛容に接する大切さに気付かせるように工夫した。

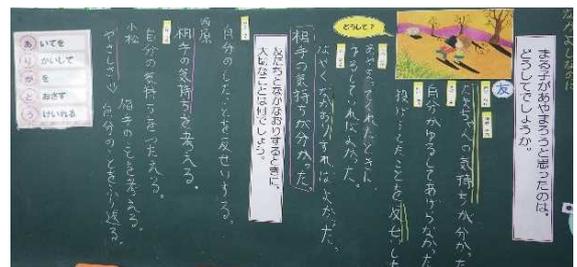
「まる子があやまろうと思ったのは、どうしてでしょうか。」

- 児童の反応
- ・自分のやったことを後悔したから。
  - ・自分もお手伝いをして、たまちゃんが留守番をしていた時の気持ちを知ったから。

活動4 今後自分がどうしていくかを考え、教師の説話を聞く。

「友だちとなかなかおりするときに、大切なことは何でしょう。」

- 児童の反応
- ・落ち着いて自分のことを振り返る。
  - ・相手の立場に立って考える。
  - ・自分の気持ちだけを考えない。



3 成果と課題

(3) 成果

- ・事前、事中にタブレット端末を活用し、アンケート実施したことで児童の課題意識が高まった。
- ・掲示物やテレビ、構造的な板書など、児童が視覚的に理解できる工夫をすることができた。

(4) 課題

- ・タブレット端末を使うことで集中が途切れてしまう児童がおり、活用場面を精査する必要がある。
- ・活動2での展開が不十分なまま活動3に入ってしまう、一つ一つの発問の流れが不自然で、児童の施行の流れが途切れてしまった。
- ・児童のつぶやきや自由な発言から、道徳的な価値に気付かせ深めていく、教師のコーディネートの手立てを具体的に考えておく必要がある。

## 第2回 校内研修

1 4学年 道徳 教材名 ぼくのじまんの町 石のまち大谷 第4学年3組 指導者 杉村 寛子

### 2 授業の実際

**活動1** ふるさとについてのアンケートの結果を確認する。

本時のめあてを確認する。

**活動2** 教材「石のまち大谷」を読んで話し合う。

(3) エミリに大谷の町を案内することになったときの主人公の気持ちを考える。

児童の反応 ・大谷石よりゲームがいい  
・大谷石はそのへんにある石。見せるほどの石じゃない。  
・ぼくは知っているからいいや。

(2) 「大谷のことをもっともっと知りたい。」と思った主人公について考える。

児童の反応 ・まだ知らないことがあったんだ。  
・大谷をもっと見てみたい。知りたい。  
・自分のまちにすごいものがあったんだ。

**活動3** 「ふるさと」を大切にすることについて考える。

昭和50年代に入り、大谷の石材の文化が一時衰退してしまった事実を伝え、それについても考える時間を設けることで、誰かが伝統を守ってくれるのではなくて地元の人々の努力によって伝統が守られていることに気付くことができるように工夫した。

「ふるさと」のよさを守るためにあなたは何がしたいですか？

児童の反応 ・宇都宮のよさを世界に広めたい。  
・大谷石の魅力をたくさんの人に広めたい。  
・学習の振り返りをする。

**活動4** 大谷振興の仕事に携わる人の話を聞く。

・大谷シティガイドの方の話  
お話をいただいたこと ①どのような思いをもって大谷の振興についてのお仕事をされているか。  
②地域の子供たちに伝えたいこと。

### 3 成果と課題

(5) 成果

- ・教材文に大谷の写真を多く取り入れた教材文を、一人一台端末を用いて提示したことは、教材文の内容をよく理解させることと、学習に対する意欲を高めることに関して有効であった。
- ・ワークシートは過去、現在、未来への流れが書いてあり、分かりやすくなっていた。
- ・大谷のシティガイドをしている方へのインタビュー映像を終末に取り入れたことは子供たちにさらに実感を持たせるのに効果的だった。

(6) 課題

- ・タブレット使用しないときは画面を閉じさせるなどして、教師の話に集中できるようにした方がよい。
- ・タブレットは教材提示だけでなく、振り返りにも活用するとよい。
- ・活動3において「ふるさとのよさを守るためにしたいこと」を考えたが、中学年では、自分たちのまちのよさに気付かせる活動でも良かったのではないか。
- ・トリオ学習は話を聞くときに後ろ向きになってしまう児童がいる。トリオの作り方を工夫するとよい。

#### ふるさとに関するアンケート

- ① ふるすとは大切だと思いますか。
- ② 大谷地区に行ったことはありますか。
- ③ 大谷石について知っていますか。



### (3) 令和4年度

#### < 1年生の実践 >

第1学年3組 指導者 岡本 直美

1 主題名 ほかの国々の人々と仲よく 内容項目 C-18 国際理解, 国際親善

2 教材名 ぼくとシャオミン

3 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領1学年及び2学年の内容項目C-18 国際理解, 国際親善「他国の人々や文化に親しむこと」をねらいとしている。グローバル化が進む今日、異なる文化をもつ人々の存在はますます身近になってきている。低学年の段階では、他国との交流に触れながら、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることが大切である。

##### (2) 児童の実態

本学級の児童28名(男子12名, 女子16名)は、明るく元気な児童が多い。授業にも意欲的で、教師の発問に対して積極的に挙手をして発言できる児童が多くいる。道徳では、身の回りの出来事を例示したり、役割演技を取り入れて心情を考えたりすることで、児童は興味をもって取り組んでいる。しかし、他国の人々や文化について、身の回りの事物が自国の文化なのか他国の文化なのかを明確に区別するような経験や、他国の人々や文化に親しむ経験が多くはないという実態もある。そこで、児童にとって身近な衣食住の中にある他国の文化に気付いたり、スポーツや行事などを通じた他国の人々に親しみをもったりできるようにしていきたい。また、映像やゲストティーチャーの話などを活用することで、自分たちと異なる文化のよさに気付かせたい。

本主題の授業を行うにあたって、次の質問によるアンケート調査を実施した。

- |   |
|---|
| <p>○ほかの国に行ったことはありますか。<br/>はい…0名                      いいえ…27名</p> <p>○ほかの国の友達や、知り合いはいますか。<br/>はい…3名                      いいえ…24名<br/>幼稚園の頃の友達(フィリピン, アメリカ), 英会話教室の先生(アメリカ出身)</p> <p>○ほかの国のことで知っていることはありますか。どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉が違う。(アメリカは英語)</li><li>・料理が違う。</li><li>・家の中で靴を履いている。</li><li>・コモド島にはコモドオオトカゲが住んでいる。</li><li>・お金の単位が違う。(アメリカはドル)</li><li>・髪の毛や肌, 目の色が違う。</li><li>・サウジアラビアの国旗がかっこいい。</li><li>・いろいろな国旗がある。</li><li>・アメリカはカフェテリアで朝ごはんや昼ごはんを食べる。</li><li>・アフリカはダイヤモンドが採れる。</li><li>・アメリカには自由の女神の像がある。ホットドッグやハンバーガーがおいしい。</li><li>・アメリカにハワイがある。</li><li>・戦争をしている国がある。</li><li>・ブラジルはサッカーが強い。</li><li>・オーストラリアは夏と冬が日本とは違う。</li></ul> |
|---|

(3) 教材について

本教材は、幼稚園の頃から中国に住み、現在日本人学校に通っている「たろう」と、中国人の友達「シャオミン」との交流を描いた教材である。文化の違いがあるにもかかわらず、「シャオミン」と自然に関わる「たろう」の姿は、他国の人々や文化に対する理解やそれらを尊重する態度を養っていく上での基礎となるものである。他国の文化を学びながら、話す言語も好きなものも違う両者が引かれ合い、毎日一緒に遊ぶのはなぜかを問うことで、国際理解、国際親善の原点である「違いを認め合う」ことのよさや大切さに気付かせたい。

4 研究主題との関連

本校の研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～」に迫るために、次のような手立てを考えた。

**導入の工夫**

・児童が問題意識をもって授業に臨めるようにするために、事前のアンケート結果の提示を行い、児童にとって身近な話題から関心を高められるようにする。

**思考を深めるための板書の工夫**

・児童の思考を深めるために、違いや多様さを対比的・構造的に示した板書の工夫を行う。

**I C Tの効果的な活用**

・児童の理解の補助やイメージを広げられるようにするために、教材の提示やゲストティーチャーの話などの画像や映像をTVで共有し、I C Tの効果的な活用を行う。

5 他領域との関連



6 本時の指導

(1) ねらい 他国の人々に親しみを持ち、自分たちと異なる文化のよさに気付いて積極的に関わっていこうとする心情を育てる。

(2) 授業の観点

○自分たちと異なる文化に目を向け、さらに、他国の人々に親しみをもったり、文化のよさに気付いたりするために、身近な外国人からの説話を取り入れたことは効果的であったか。

(3) 展開 ☆研究主題との関連 ※人権教育上の配慮 ◎児童指導上の留意点 ◇評価の視点

	学習活動	主な発問と児童の反応	教師の支援と評価	資料準備
導入	1 ほかの国について考える。 	ほかの国のことで、知っていることはありますか。 ・韓国の食べ物を知っているよ。 ・グラント先生と英語で話したよ。	☆事前アンケートを活用し、回答を紹介することで、教材への方向付けをする。 ・児童にとって身近な話題から取り上げ、いろいろな国について関心を高めるようにする。 	アンケート結果

展開

2 教材「ぼくとシャオミン」をもとに話し合う。

(1)「ぼくと」  
「シャオミン」が好きな食べ物や得意な遊びについて挿絵を見て考える。

「ぼくと」  
「シャオミン」の好きな食べ物や得意な遊びは何でしょう。

- ・「さんざし」って何だろう。
- ・「さんざし」はおいしいのかな。食べてみたい。
- ・「ティージェンズ」って名前がかっこいい。
- ・難しそうだけどやってみよう。



☆話す言語、好きな食べ物、得意な遊びが互いに違うということが視覚的に分かるように板書を整理する。

- ・さんざしやティージェンズの映像を見たり、ティージェンズを実際に体験したりすることで、中国に対する親しみをもったり、異なる文化に気付いたりできるようにする。



TV  
PC

ワーク  
シート

(2)「ぼくと」  
「シャオミン」は、得意なことが違うが、なぜ毎日一緒に遊ぶのか考える。

言葉も好きな食べ物も得意なことも違う二人が、なぜ毎日一緒に遊ぶのでしょうか。

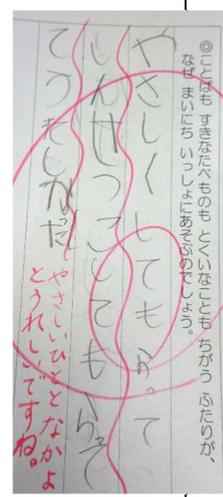
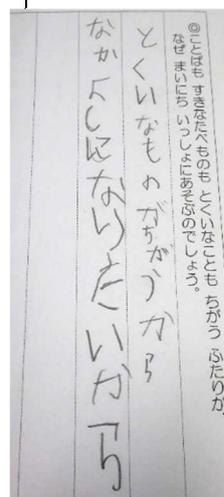
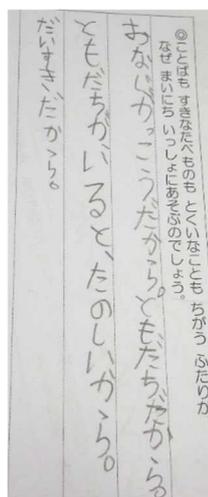
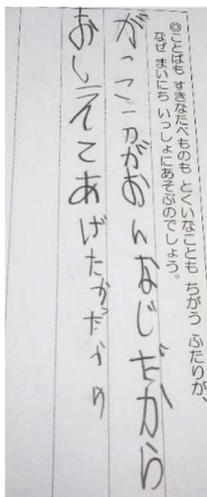
- ・楽しいから。
- ・シャオミンのことが好きだから。友達だから。
- ・いろいろ教えてもらえるから。
- ・違うことがあるのはおもしろいから。

・進んで話合いに参加できるように、ワークシートに自分の意見を書かせてから、ペアでの交流を取り入れる。

- ・ペアでお互いの意見を伝え合うことで、自分の考えに自信をもったり、友達の考えのよさに気付いたりできるようにする。

◇「ぼくと」  
「シャオミン」の様子から、ほかの国の人と仲良くすることのよさを考えることを通して、違いを認め合うことの大切さやよさに気付いている。

- ・仲良しになったり、好きになったりするの文化の違いは関係がないことに気付かせるようにする。



3 本時を振り返り、ほかの国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりすることの大切さについて考える。

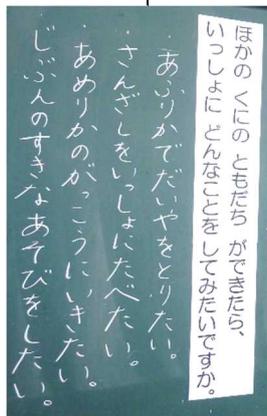
ほかの国の友達ができたらいっしょにどんなことをしてみたいですか。

- ・遊びを教えてもらいたい。日本の遊びも教えてあげる。
- ・その国の食べ物を一緒に食べたい。
- ・その国に行ってみたい。
- ・言葉を教えてもらいたい。

・ほかの国の友達とだからこそできることを考えるように伝える。

◎友達のいろいろな意見を尊重して聞けるようにする。

◇自分自身を振り返り、自分たちと異なる文化やほかの国の人々に積極的に関わってほしいと意欲を高めている。



4 ほかの国の人々との交流についての説話を聞く。



☆※ゲストティーチャーとして、同じ学年の児童の保護者の話を紹介し、身近に感じさせることで、ほかの国に対して親しもうとする気持ちがよりいっそう高められるようにする。



## 7 成果と課題

### (1) 成果

・登場人物の立場に立って考えたり、友達とペアで交流し、お互いの意見を伝え合ったりしたことで、多様な考えに触れることができた。また、自分の考えに自信をもつことや、友達の考えのよさに気付くことができ、1年生にとって話し合い活動の大きな第一歩となった。

・ゲストティーチャーを活用することで、異なる文化や他国の人々への関心を高めることができた。ゲストティーチャーによる映像や、実物のティージェンズを見せることで、児童がより身近に感じることができた。

・事前アンケートを実施したことで、他国に対する意識や興味をもつことができた。また、自分自身を振り返る際にも、事前アンケートに立ち返ることで、他国の人々と積極的に関わってほしいとする意欲をもつことができた。

### (2) 課題

・主発問が1年生に対して難しく、ねらいとする「違いを認め合う大切さ」について気付くような意見を引き出すことがうまくできなかった。振り返りにつなげることで、これから他国の人々と関わってほしいとする意欲を高めることはできたため、もう一步踏み込んだ問いかけや、ねらいに迫るような言葉掛けができるようにしていきたい。

・自分の考えた意見について、理由をもって答えることや、周囲との話し合いによって考えが深まる場面がなかった。普段から様々な教科を通して話し合い活動を多く取り入れたり、自分の意見をもって話し合ったりすることで、児童同士の学び合いが深めていけるように、学習を積み重ねていきたい。

- 1 主題名 友達と信頼し合う 内容項目 B一（9）友情，信頼
- 2 教材名 なかよしだから
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容項目B一（9）友情，信頼「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと」をねらいとしている。

第3学年の段階では，仲間意識が高まり，気の合う仲間が集まったり，友達を大切にしたりする傾向が強くなってくる。その反面，友達だからといって，よいことも悪いことも曖昧にし，一緒になって悪いことをしたり，友達の悪い行為を見過ごしたりすることがある。よい友達とは，友達のわがままを受け入れたり，過ちや誤りを黙認したりするのではなく，相手のことを考え，いけないときにはいけないと注意し合えるものである。互いのためにどうあるべきかをよく考え，ともに向上しようと努力し，真の友情を育てていこうとする態度を養う必要があると考え，本主題を設定した。

（2）児童の実態

本学級の児童は，明るく素直な児童が多い。困っている友達には進んで優しく声を掛け，互いに助け合う姿がよく見られる。また，時には注意をし合うこともできている。事前に行ったアンケートでは，「友達に注意したことはありますか。」に対して，15名の児童が「はい」と答えた。しかし，その注意の内容は，学校生活のきまりに関するものが多く，互いのために思い合って注意し合うという意識はまだ薄い。また，「困っている友達がいたらどうしますか。」に対して17名の児童が「助ける」と回答しており，本教材を通してどんな場合でも助けることが本当に友達のことを考えた行動なのかについて考えさせたい。よい友達とはどのような友達なのか考え，友達を大切にできる態度を育てたい。

本主題の授業を行うに当たって，次の質問によるアンケート調査を実施した。

- 仲良しな友達はいますか。  
はい…28名                      いいえ…0名
- 困っている友達がいたら，どうしますか。  
・助ける      ・声を掛ける      ・先生に言う
- 友達に注意したことはありますか。  
はい…15名                      ない…13名
- それは，どんな時ですか。  
・廊下を走っている時      ・いじわるしているところを見た時      ・危ないことをしている時
- よい友達って，どんな人だと思いますか。  
・優しい人…8名      ・思いやりのある人…6名      ・遊んでくれる人…4名  
・助けてくれる人…3名  
（その他）悪口を言わない人・笑顔になれる人・話を聞いてくれる人・教えてくれる人

（3）教材について

本教材は，算数の宿題を忘れてしまった「ぼく」が，友達の実さんに宿題の答えを教えてくれるように頼む。前日，実さんにカーブの投げ方を教えてあげたから，そのお返しに教えてくれるだろうと考えるが，実さんに「なかよしだから，なお教えられないよ。」と断られ，「ぼく」がよい友達の意味について考える教材である。「ぼく」がその言葉の意味について考え，実さんがなぜ宿題を教えてくれなかったのか，「ぼく」の気持ちの変化について考えることにより，「よい友達」とはどのようなものかを考えさせたい。さらに，友達と信頼し合うことの大切さに気付かせ，よりよい友達関係を築こうとする心情を育てたい。

#### 4 研究主題との関連

本校の研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～」に迫るために、次のような手立てを考えた。

**課題意識をもち、それを生かして道徳的価値を追究できるような導入の工夫**

- ・導入でアンケートを実施し、事例について自分たちの考えをもつことで、本時で扱う道徳的価値についての課題意識をもたせる。

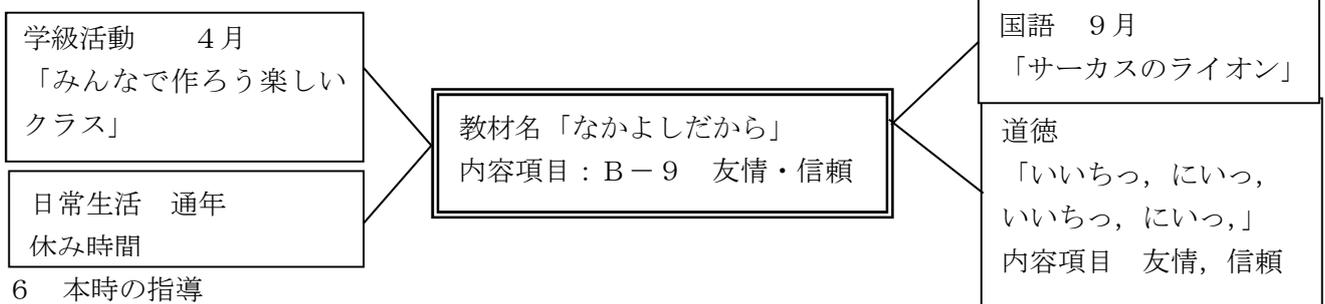
**考えを深める学習形態の工夫**

- ・実さんがなぜ「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言って断ったのかについて、トリオ学習で意見を交流することで、多様な考えに触れて自分だけでは気付かない視点や考えにつなげることができるようにする。

**ねらいに迫るための発問の工夫**

- ・「ぼく」に対する実さんの気持ちを中心に考えさせてから、「よい友達とは、どんな友達か」と再び課題に戻り、友達とのよりよい関係の在り方について考えさせることで、友達の大切さを実感できるようにする。

#### 5 他領域との関連



#### 6 本時の指導

##### (1) ねらい

友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする心情を育てる。

##### (2) 授業の観点

- ・事前にアンケートを実施したことは、事例について自分の考えをもち、本時で扱う道徳的価値についての課題意識を高めるために効果的であったか。
- ・トリオ学習を取り入れたことは、多様な考えに触れて自分だけでは気付かない視点や考えにつなげるために効果的であったか。

##### (3) 展開

☆研究主題との関連 ※人権教育上の配慮 ◎児童指導上の留意点 ◇評価の視点

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援と評価	資料
導入	1 アンケート結果を知り、「よい友達」についての問題意識をもつ。	よい友達とは、どんな人だと思いますか。 	☆アンケート結果を知り、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。	アンケート結果
	2 教材「なかよしだから」を読んで話し合う。 (1) 実さんに答えを教えたもらえなかったときの「ぼく」の気持ちを考える。	「自分でやれよ。」と実さんに言われて、答えを教えてもらえなかった「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ・仲良しなのに。 ・お返しはないの。 ・ぼくって友達じゃないのかな。	・宿題を忘れてきたことに気づき焦る「ぼく」、ボール投げを教えたからそのお返しに教えてもらえるとと思っていた「ぼく」の気持ちを押さえる。 	場面絵

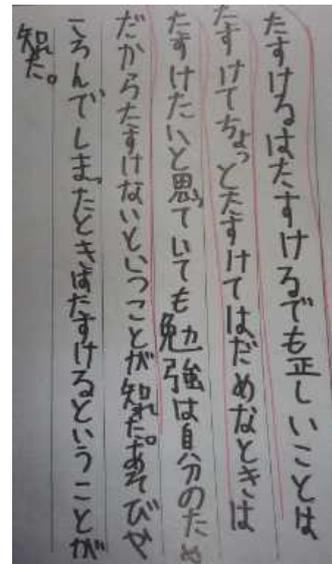
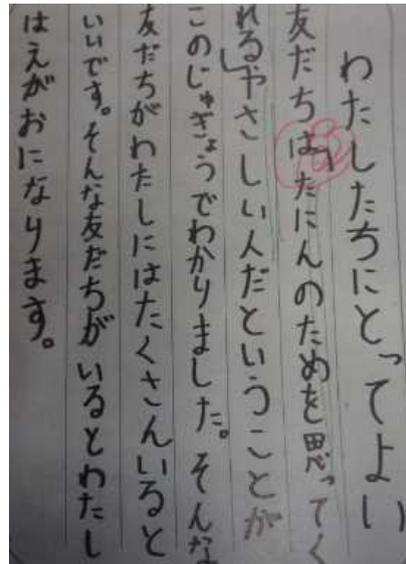
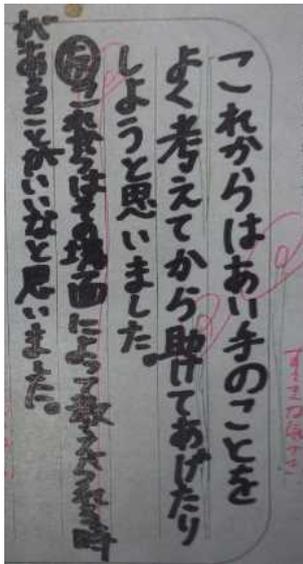


		・授業を通して気付いたことや考えたこと、友達の考えを聞いて思ったことなどについて振り返る。	・学んだ道徳的価値を自分の日常生活と結び付けて考え、今後の生活に生かしていこうとする意欲を高めるようにする。
終末	3 教師の説話を聞く。		・友達に関する教師の説話を聞くことで、友達を理解し、大切にすることへの関心を高めることができるようにする。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ・事前にアンケートを実施したことは、本時で扱う道徳的価値について児童の課題意識を高め、今の自分の立場を知り、教材の内容を考えるきっかけとなり有効であった。また、授業の導入だけでなく終末でアンケート結果を再度教師が取り上げたことで、授業を通して児童が「よい友達」についての捉え方が変容していることを実感することができた。
- ・トリオで話し合いをしたことで、多様な考えに触れ、自分だけでは気付かない視点や考えをもつことができた。また、少人数で発言しやすく、主体的に自分の考えを共有することができた。
- ・教材文の中から、人物の様子が分かる言葉をキーワードとして授業で繰り返し触れ、その意味について問い返しをしたことで、児童自身の気持ちの変容のきっかけとなった。



### (2) 課題

- ・トリオ学習の際、話し合いがペアになってしまうことがあった。児童間で発言の偏りが見られた際、疑問に思ったことやもっと知りたいことを発表者に投げかけ、再度話し合いにつなげることが必要であると感じた。
- ・操作や入力に時間がかかるため、本時ではタブレットの活用はせず、ワークシートのみを使用した。タブレットの活用は、児童の変容が視覚的に分かりやすく提示・共有できる良さがあるので、時間と学びに合う活動の両面を考慮しながら今後も研究をしていく必要がある。

- 1 主題名 伝統を守る 内容項目C－(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
- 2 教材名 宮染めの浴衣
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領第5学年及び第6学年の内容項目C－(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」をねらいとしている。また、「とちぎの子どもたちへの教え」では、高学年に「日本や郷土の伝統と文化を尊重する」が位置付けられている。高学年では、我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられるようになることから、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。

指導に当たっては、機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり、直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して、伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとする心構えを育てる必要がある。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、宇都宮の伝統や文化についての認識が低く、また、その歴史や守り続けてきた人々の思いに触れる機会も少なくなっている。さらに、伝統や文化を受け継ぐことは大切であると回答した児童が大半であるが、ほとんどが行動には表せていない。そこで、本時の学習を通して、以前の学習も関連させながら、郷土の伝統や文化を尊重し発展させていこうという態度を育てたい。

本主題の授業を行うに当たって、次の質問によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査・・・実施人数28人

○宇都宮の伝統や文化にどんなものがあるでしょうか。

獅子舞 ふくべ細工 黄ぶな 宮祭り 大谷石 ぎょうぎ しもつかれ いちご 分からない…4名

○伝統文化を受け継ぐ(大切にすること)は、必要だと思いますか。

はい…28名

○それは、なぜですか。

- ・昔からあった伝統や、自分が住んでいるところは、大切にしたいほうがいい。
- ・皆が、大切にしてきたものを受け継ぐのは大切だと思うから。
- ・その文化がつぶれたら作った人が悲しむから。
- ・自分たちの住むところの伝統文化のことなどをしておいたほうがいいと思うから。
- ・宇都宮の伝統文化を受け継いで魅力をいろいろな人に伝えたいから。

○伝統や文化を受け継ぐ(大切にすること)のために、今あなたがしていることはありますか。

- ・伝統の物や場所を見に行く
- ・地域のお祭りに参加する
- ・知っていることを伝える
- ・特産品を使って料理する
- ・道や地域をきれいにする
- ・ない、分からない…13名

### (3) 教材について

本教材は、主人公が母の宮染めの浴衣を通して伝統や文化について考える話である。始めは、母の浴衣について関心がなかった主人公が、染工場を見学し、社長さんの言葉や帰宅後の祖母の言葉から浴衣に対する見方が変わり、伝統や文化について深く考えるようになる。社長さんの言葉や祖母の話を通して、主人公の気持ちの変容や気づきを捉えることで、郷土の伝統や文化のよさに気づき、守り受け継いでいこうとする態度を育てたい。

### 4 研究主題との関連

本校の研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成」～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～に迫るために、以下の手立てを考えた。

#### 課題意識をもち、それを生かして道徳的価値を追求できるような導入の工夫

- ・アンケートを実施し、伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度についての各自の考えを把握するとともに、その結果を導入で提示することにより、課題意識をもち、学習テーマにつなげるようにする。
- ・宮染めについての動画や写真、手拭いやマスクの実物を見せることで、児童の学習の興味・関心を高めるようにする。

#### ねらいとする道徳的価値に迫るための発問の工夫

- ・アンケート結果を示すことで、本時の課題が社会と自分との関わりであることに気付かせ、切実感をもった話合いができるようにする。また、展開後段に再確認することで、伝統や文化を守り受け継いでいこうとする態度について振り返るようにする。

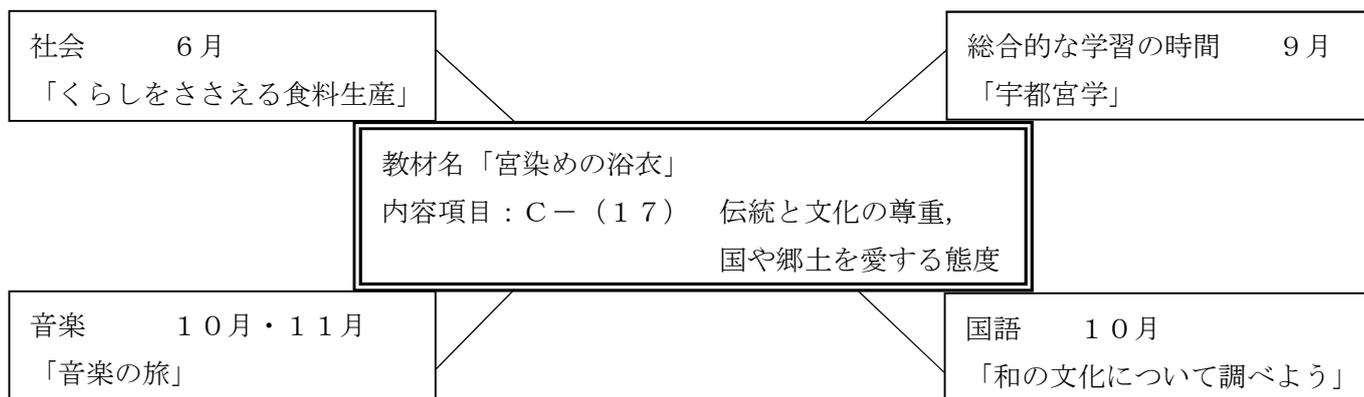
#### 考えを深めるためのワークシートと学習形態

- ・宮染めに対するそれぞれの思いを比較して考えるために、思考ツール「Xチャート」を用い、それぞれの思いの相違点や共通点を見付ける手助けとする。
- ・トリオ学習を取り入れることで、誰もが発言する切実性をもたせ、より主体的で多様な意見の交流をすることができるようにする。

#### 構造的な板書の工夫

- ・黒板を「学習の方向付け」「教材の発問」「主発問」と問題解決に向かう学習内容を構造的に示し、思考を深める手助けとなるようにする。

### 5 他領域との関連



### 6 本時の指導

(1) ねらい 郷土の伝統や文化のよさに気づき、守り受け継いでいこうとする態度を育てる。

(2) 授業の観点

○トリオ学習を取り入れたことは、より主体的で多様な意見の交流を行うために有効であったか。

○思考ツールを活用したことは、思考を可視化して、考えを広めたり深めたりしたり、様々なアイデアを出したりするために効果的であったか。

	学習活動	主な発問と児童の反応	教師の支援と評価	資料準備
導入	1 自分たちの郷土の文化や伝統について想起して発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     宇都宮市の伝統や文化にはどんなものがありますか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮祭り</li> <li>・大谷石</li> <li>・黄ぶな</li> <li>・餃子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に本文を読み、注染のVTRを見ておくことで、教材への理解を高めておく。</li> <li>・祭り、イベント、食べ物、観光地、特産品などについて知っているものを挙げる。</li> </ul>	写真 手拭い マスク アンケート
	伝統や文化を大切にすると、どういうことか考えよう。			
展開	2 「宮染めの浴衣」を読んで話し合う。 (1) 母に浴衣を着るか尋ねられたときの、主人公の気持ちを考える。 (2) 社長さん、祖母の宮染めに対する思いを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     かなえは、母に浴衣を着るか尋ねられたとき、なぜ首を振ったのでしょうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしいから。</li> <li>・暑そうだから。</li> <li>・転びそうだから。</li> <li>・着慣れているものいいから。</li> <li>・派手に見えるから。</li> <li>・自分には、まだ似合わないから。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     社長さんは、作る側としてかなえに何を伝えたかったのでしょうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの努力、工夫</li> <li>・宮染めの良さ</li> <li>・もっと続いてほしい</li> <li>・伝統を守りたい</li> <li>・また一から始める困難さ</li> <li>・職人たちの厳しい環境 (夏は暑く、冬は寒い)</li> <li>・道具を直す職人も減っている</li> <li>⇒続けることの難しさ</li> <li>・早くに亡くなった父の思いを継ぎたい</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     祖母は、使う側としてかなえに何を伝えたかったのでしょうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統や文化を残したい</li> <li>・受け継いでほしい</li> <li>・良さを知ってほしい</li> <li>・かなえに着てほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮染めのよさに気付いていない、かなえの様子についておさえる。</li> <li>・浴衣の着用について、児童に問いかけることで、かなえの気持ちを共感的に捉える。</li> <li>◎異なる意見も尊重し、互いに認め合えるようにする。</li> <li>・児童に、社長さんがどのような状況で仕事をしているか問い返し、厳しい状況でも伝統のために仕事をしていく様子を想像させる。</li> <li>☆思考ツールを使うことで、それぞれの思いの相違点や共通点を比較して考える助けとする。</li> <li>・違った立場の思いを考えさせることで、先人の努力やそれぞれにとって宮染めがどんな存在か感じ取らせる。</li> </ul>	挿絵 ワークシート 思考ツール (Xチャート)

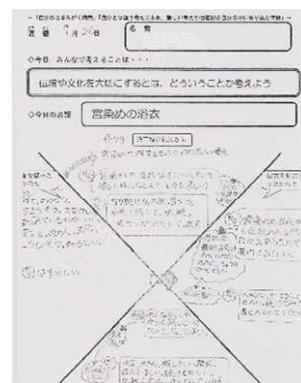


<p>展 開</p>	<p>(3) それぞれの立場の気持ちを考える。</p> <p>3 これからの自分について考える。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>浴衣を見に行ったかなえは、何を考えていたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統を受け継いでいきたい。</li> <li>・ 伝統を大切に守っていきたい。</li> <li>・ 伝統に触れたり広めたりしたい。</li> <li>・ 使うことで伝統が守られる。</li> <li>・ きれい。やっぱり着てみようかな。</li> <li>・ 個性が出る染め方ができる。</li> <li>・ 宮染めってやっぱりすごいんだな。</li> </ul>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>伝統や文化を大切にするために、できることは何だろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統を知ったり、伝えたりする。</li> <li>・ 祭りなどに積極的に参加する。</li> <li>・ 宮染めの物を買って大切に使う。</li> <li>・ 伝統文化について、もっと調べる。</li> <li>・ 今までの努力を伝える。</li> </ul> 	<p>☆多様な考えに触れさせるよう3人グループで互いの意見を交流し、全員に発言の機会を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社長や祖母の話を聞いて変化した、かなえの宮染めに対する思いを考えさせる。</li> <li>・ かなえの思いが変化した理由を考えさせる。</li> </ul> <p>・ 2(3)で出た意見をもとに、具体的にどのようなことができるか想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度アンケート結果を振り返り、伝統や文化を受け継ぐためにできることを自分のこととして考えられるようにする。</li> </ul> <p>☆郷土愛の高揚のため、また、イメージしやすくするために写真を掲示する。</p> <p>◇郷土の伝統と文化のよさに気づき、守り受け継いでいこうという意欲を高めているか。</p>	<p>写真</p>
<p>終 末</p>	<p>4 学習の振り返りを行う。</p> <p>5 教師の体験談を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を通して気付いたことや考えたこと、友達のことを聞いて思ったことなどについて書く。</li> <li>・ 具体的なエピソードを交えながら、伝統や文化は宇都宮だけのものではなく、それぞれ大切に守り受け継ぐ努力をしていることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の振り返りをする中で、本時の学習を深めるようにする。</li> <li>・ 伝統や文化は、宇都宮だけのものではなく、日本全国にあることに目を向けさせ、国や郷土を愛する心の高揚につなげる。</li> </ul>	<p>ワークシート</p> <p>図書資料写真</p>

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- アンケートを実施したことは、各自の考えを把握したり、課題意識をもって学習テーマにつなげたりすることができ効果的であった。その中で、児童の経験の違いを把握することができたため、事前に宮染めの手ぬぐいや製作過程のVTRを見せるなど、経験の違いを埋め、授業に臨むことができた。
- 他のクラスの実践では、時間短縮のため、学習活動2(2)で、社長さんと祖母の宮染めに対する思いを同時に扱っていた。しかし、それぞれ「作り手」と「使い手」と立場が違うことから、その立場の違いも明確にして、順に考える授業展開に変えたところ、それぞれの思いの相違点・共通点を考えることができた。
- トリオで話し合いをさせたことで、誰もが発言する切実性をもたせ、友達の意見を参考にしながら主体的に意見を交流しようとすることができた。
- 宮染めに対する登場人物の思いを、思考ツール「Xチャート」を用いて考えたことは、それぞれの思いの相違点や共通点、思いの変化を思考するために効果的であった。また、それと連動して黒板にも同様の思考ツールを表示したことで、話し合いながら思考をまとめていくことに効果的であった。今後も学習内容に合った思考ツールを活用していきたい。
- 他のクラスの実践では、学習の振り返りを行う際、タブレットを活用することで自分の学びの変遷を簡単に見ることができたり、友達の意見を手元で参考にしたりすることができたりして、考えが深まったり広がったりして効果的だった。



### (2) 課題

- 学習内容に関する経験値の違いを更に埋めるために、学習との関連としてあげた「総合的な学習の時間 宇都宮学」を事前に学習しておくことより効果的だったのではないかと感じた。
- トリオ学習では、話し合いと発表に時間がかかり、深い話し合いにするための時間を十分に確保することが難しいと感じた。話し合いの回数と時間の兼ね合いを考慮しながら、授業展開していくことが大切だと感じた。
- 学習の振り返りを行う際、タブレットを活用することは、入力作業に時間がかかるため、本時では、ワークシートに記入する方法に変えた。有効性と時間とを鑑み、今後も研究を深めていきたい。

## (4) 3年間の研究の成果と課題

### <成果>

- ・保護者・教職員へのアンケートを行い、児童の実態を踏まえた上で道徳教育全体計画を見直したことで、本校の重点指導項目を意識した指導の充実を図ることができた。
- ・教師が明確な指導観をもって授業に臨んだり、授業で学ばせたいことを提示したりしたことで、児童がその課題について向き合い、自分自身との関わりでその価値について考えることができた。
- ・導入時に事前アンケートの結果を提示することで、児童の興味関心を高め、学習問題にスムーズに進むことができた。また、問題となる場面を考えさせることで、道徳的問題を児童自ら発見でき、主体的な学びに導くことができた。
- ・教師が児童の反応を予想して補助発問を用意しておいたり、問い返しの発問をしたりすること、児童のつぶやきを拾うこと、児童同士の言葉をつなぐことを意識していくことで、話合いに深まりが見られた。
- ・自身の立場や考えを表現させることで、対話を通して協働的に学ぶ姿が見られた。また、教師が問いを交えることで、中心価値に迫る手立てとなった。
- ・役割演技や動作化などの即興的な演技を通して、登場人物の心情に迫り、一人一人の考えを表現させることができた。
- ・ペア学習や役割演技を通して、全員が発言したり自分と違った意見に触れたりすることで、自分で考え、その考えを伝えようとする力が育ってきた。また、一人では考えがもてない児童にとっては、交流することで考えるヒントをもらい、考えを広げたり生活と結び付けたりできるようになった。
- ・主人公が葛藤する内容の資料などでは、表出カードによる意思表示をしてグループトークをしてから、全体の話合いへという流れが話合いを深めるために効果的であった。
- ・板書を構造化することで、視覚的に訴えることができ、児童の思考を深める手掛かりになった。
- ・振り返りをしっかり行うことで、自分自身との関りで考え、授業で学んだことを実生活に生かそうと考える児童が育ってきた。
- ・毎時間の授業で、児童が考えたことや思ったことなどをワークシートに記述させ、それを蓄積して通知票や要録への評価につなげていくことができた。
- ・一人一台端末の活用により、児童が短時間に考えを共有でき、個々の考えを把握してコーディネートしやすくなった。

### <課題>

- ・実践を積み重ねていくと、重点項目と児童の実態や保護者・教員の願いとのずれが生じてくるので、定期的にアンケートをとる必要がある。
- ・ペア学習などでは、伝え合うことはできても、相手の考えを受けて返したり、考えを深め合う話合いを行ったりする力がまだ十分ではないので、本音で話し合える気持ちや技能を高めていく必要がある。また、交流すること自体に重きを置くのではなく、その教材にとって価値を深めるためにはどのような方法が妥当なのかを考えていくことが大切である。
- ・話合いにおいて、前の発言者の内容を受けて自分の考えを発表したり、自分の言葉に置き換えたりできるよう、児童の話合いの力をさらに高めていきたい。
- ・一人一台端末の効果的な活用の仕方についての研究をさらに進めていきたい。
- ・1時間の授業の中で、児童の考え方の変容や深まりがどう見られたかを見取ったり、同じ内容項目の学習では、児童の発言や記述にどのような深まりが見られたかを見取ったりするなど、長期的な評価をしていく必要がある。

## あとがき

本校では、栃木県小学校教育研究会道德教育研究大会宇都宮大会の会場校の指定を受けて以来3年間、研究主題を「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成」とし、「多面的・多角的に考え、深める道德科の授業」を目指し、研究に取り組んでまいりました。

研究開始当初は、新型コロナウイルス感染症に対する臨時休校の最中で、研究どころか学校教育はどうなっていくのだろうかという不安にかられながら、様々な対応に追われる日々でした。6月から学校再開となりましたが、どのような感染対策を講じながら授業を進めていけばよいのだろうか、遅れをどう取り戻せばよいのだろうかと模索しながらの研究でした。未だ感染に対する不安の残る状況の中、授業においては、指導者が「学習指導要領を基に、何をねらいとし、何を考えさせ、何を育てたいのか」という指導観をしっかりとをもって臨むことを第一に置き、実践を重ねてきたところです。

この3年間の研究を通して、児童が真摯に課題と向き合い、自分の考えを明確にもち、それを他の考えと比べながら確固たるものにしたり、変化させたりすることで考えを深めていこうとする態度が高まるなど、成果を上げることができました。また、私たち教職員も、日常の道德教育の指導の在り方を見直す機会を得ることができました。今後は、明らかになった新たな課題の解決に向けて、より一層の研究・研鑽に取り組む所存であります。

最後になりましたが、本研究の推進にあたり、丁寧なご指導・ご助言をいただきました諸先生方に心より感謝と御礼を申し上げ、あとがきといたします。

### 【ご指導いただいた先生方】

宇都宮大学共同教育学部教授	和井内 良樹 先生
栃木県教育委員会河内教育事務所指導主事	中澤 由香 先生
宇都宮市教育委員会副主幹指導主事	和田 千明 先生
宇都宮市立西原小学校長	生田 敦 先生
宇都宮市立平石中央小学校副校長	津久井 文 先生
宇都宮市立陽南小学校教諭	齋藤 尚子 先生

## 【研究同人】

### ○令和2年度

由井 薫	大木 和明	細内 俊久	黒田 泰史	河西利恵子
田中 洋子	小沼由美子	天谷 明子	福田 恵子	江口かおる
鈴木 秀美	富澤恵美子	長峯 貴志	手塚 正道	川田明日美
池田 和博	杉村 寛子	星 直樹	菊地 洋貴	西松理那乃
大久保怜史	坂本 聖愛	野村 早苗	中島 功裕	廣瀬 美緒
池田 敦子	福田 彩夏	伊波 優芸	堀井 綾子	手塚 裕子
福田知沙子	矢野 利穂	鈴木 明夫		

### ○令和3年度

上岡 真澄	佐藤 寿子	駒場 一博	佐藤 継将	鈴木 早苗
増渕 育恵	水嶋 恭子	高山 卓哉	有村 由貴	檜山 進

### ○令和4年度

宮井 由美	岡本 直美	吉田恵理子	牧岡 愛理	岩崎 尋
成嶋 浩太	斎藤 大生	長沢 薫	安藤 祥子	松尾 靖子
蟻川 茜				

## 【参考図書・資料】

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年度告示）
- ・「考え、議論する道徳」の授業づくり 栃木県総合教育センター
- ・栃木県道徳教育ハンドブック 栃木県教育委員会
- ・考え、議論する道徳に変える 発問&板書の鉄則45（加藤宣行 明治図書）
- ・考え、議論する道徳に変える 話し合い&道徳ノートの鉄則45（加藤宣行 明治図書）
- ・おもしろすぎて授業がしたくなる 道徳図解（森岡健太 明治図書）
- ・「特別の教科 道徳」で大切なこと（赤堀博行 東洋館出版社）
- ・こだわりの道徳授業（浅見哲也 東洋館出版社）
- ・道徳的価値の見方・考え方（赤堀博行 東洋館出版社）